

《賑わい分野》

文化スポーツ振興部

2013年度 文化スポーツ振興部 文化振興課の財務諸表

歳出目名称	文化振興費
事業類型	a:施設所管型

I. 組織概要

組織の使命 文化芸術活動の環境を整備し、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を通じて、お客様が文化・芸術に親しみ、心豊かな生活を送れることを目指します。

- 所管する事務**
- ◆文化芸術振興施策の基本方針に関すること。
 - ◆文化芸術振興のための事業に関すること。
 - ◆指定文化財を除く伝統芸能の継承と発展に関すること。
 - ◆芸術家支援に関すること。
 - ◆町田市立博物館に関すること。
 - ◆町田市民ホールに関すること。
 - ◆和光大学ポプリホール鶴川に関すること。
 - ◆国際交流に関すること(町田国際交流センター)。
 - ◆町田市文化・国際交流財団との連絡調整に関すること。
 - ◆文化施設の整備に関すること。
 - ◆町田市フォトサロンに関すること。
 - ◆成人式(二十祭まちだ)に関すること。

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆資産老朽化比率が高い施設について、建替えを含めた検討と施設の維持管理が重要な課題となっています。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
所管施設利用者数	人	-	328,401	387,046	403,125	所管4施設(博物館、市民ホール、ポプリホール、フォトサロン)の施設利用者数

成果の説明

- ◆所管4施設の2013年度利用者数は58,645人増えています。これは前年度のポプリホールの施設利用者数が半期分の数値であったこと、市民ホールの利用者数が13,634人増えたためです。
- ◆芸術文化イベント事業では、パートナーシップ協定を結ぶ劇団「音楽座ミュージカル/Rカンパニー」のプロモーション活動を行いました。また、町田市ゆかりのアーティストのコンサートやギャラリーを市庁舎内で行いました。
- ◆博物館展示事業では、博物館の開館40周年と日本ベトナム国交樹立40周年を記念して「ヴェトナム陶磁の二千年展」を開催しました。展覧会開催期間にはポプリホールにて市内大学・小学校と連携し、展示やベトナム図書コーナーの設置を行いました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	144,986	131,315	△ 13,671	地方税	0	0	0
	うち時間外勤務手当	12,796	10,329	△ 2,467	保険料	0	0	0
	物件費	431,796	394,164	△ 37,632	国庫支出金	0	0	0
	うち委託料	327,490	357,709	30,219	都支出金	25,181	6,610	△ 18,571
	維持補修費	34,403	6,246	△ 28,157	分担金及び負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	使用料及手数料	1,434	1,701	267
	補助費等	27,508	26,790	△ 718	その他	12,444	7,812	△ 4,632
	減価償却費	30,161	121,197	91,036	行政収入 小計(a)	39,059	16,123	△ 22,936
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 649,403	△ 668,396	△ 18,993
	賞与・退職手当引当金繰入額	19,608	4,807	△ 14,801	金融収支差額 (d)	△ 4,567	△ 10,016	△ 5,449
行政費用 小計 (b)	688,462	684,519	△ 3,943	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 653,970	△ 678,412	△ 24,442	
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	13,026	13,026	
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	13,026	13,026	当期収支差額 (e)+(h)	△ 653,970	△ 665,386	△ 11,416	

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	市民ホール指定管理料 142,000千円 鶴川緑の交流館指定管理料 147,894千円 フォトサロン管理運営委託料 10,169千円 (仮称)鶴川駅前公共施設新築工事に伴う家屋復旧費積算調査及び交渉業務委託料 913千円 など	決算額の主な内訳	市町村総合交付金 5,360千円 多摩の魅力発信事業費補助 1,250千円
主な増減理由	博物館事業における緊急雇用創出事業(各種目録作成業務委託)が2012年度で終了したことや、市民ホール管理委託料の減少により、37,632千円の減少。	主な増減理由	緊急雇用創出事業費臨時特例補助金が2012年度で終了したことにより、25,181千円が減少しましたが、上記2件の都支出金の収入6,610千円の増加に伴い、18,571千円の減少。

勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	市民ホール空調用中央監視装置交換修繕料 872千円 市民ホール煙感知器他修繕料 579千円 市民ホール通用口エアカーテン修繕料 289千円 ポプリホール鶴川1階授乳室修繕料 145千円 博物館空気調和設備改修工事等の修繕 2,239千円 など	決算額の主な内訳	物品売払収入(博物館事業) 2,312千円 指定寄付金(博物館事業) 1,000千円 広告掲載料(鶴川緑の交流館事業) 4,500千円 複写機等使用料(博物館事業) 360円
主な増減理由	2012年度はポプリホールの開館初年度で追加工事を行いました。2013年度は各施設の修繕のみにとどまったため、28,157千円の減少。	主な増減理由	2012年度に受けたコミュニティ助成金9,500千円給付が終了しましたが、ポプリホールの命名権料4,500千円の収入があり、結果4,633千円の減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		5,664	18,263	12,599
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	13,456	13,456
固定資産	有形固定資産	3,881,223	3,765,417	△ 115,806		賞与引当金	5,664	4,807	△ 857
	土地	644,088	644,088	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物	4,217,017	4,217,017	0	固定負債		1,881,484	1,838,046	△ 43,438
	建物減価償却累計額	△ 979,882	△ 1,095,688	△ 115,806		地方債	1,744,000	1,730,544	△ 13,456
	工作物	0	0	0		退職手当引当金	137,484	107,502	△ 29,982
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0		負債の部合計	1,887,148	1,856,309	△ 30,839
	工作物	0	0	0	純資産		2,629,205	2,538,846	△ 90,359
工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	635,130	629,738	△ 5,392	純資産の部合計		2,629,205	2,538,846	△ 90,359	
資産の部合計	4,516,353	4,395,155	△ 121,198	負債及び純資産の部合計		4,516,353	4,395,155	△ 121,198	

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	土地(事業用資産)
決算額の主な内訳	市民ホール 1,197,184千円 鶴川緑の交流館 2,820,350千円 本町田遺跡公園 60,484千円 博物館 139,000千円	決算額の主な内訳	音楽機器 22,611千円 生活・調理機器 2,393千円 財団出資金 3,000千円 館蔵芸術文化資料 556,735千円 資料収集基金 50,000千円	決算額の主な内訳	本町田遺跡公園 245,664千円 鶴川緑の交流館 398,424千円
主な増減理由	上記4施設の老朽化に伴い、減価償却額115,806千円の減少。	主な増減理由	ピアノ等重要物品の減価償却(鶴川緑の交流館事業及び市民ホール事業)により、5,392千円の減少。	主な増減理由	

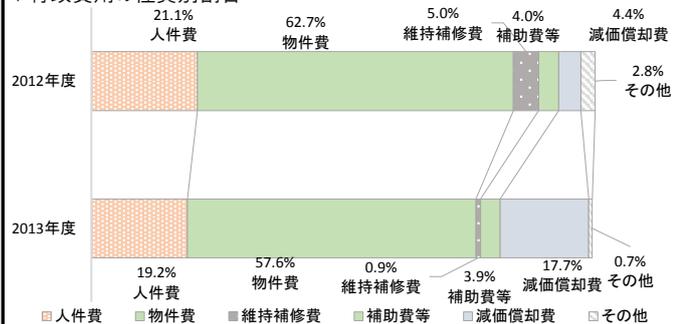
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	16,123	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	591,152	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 575,029	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
			収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 575,029	
			一般財源充当調整額	575,029	

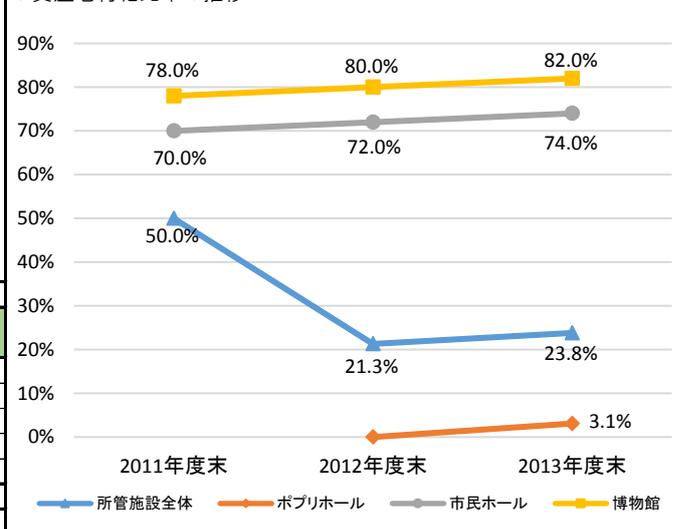
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽資産老朽化比率の推移



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用				2013 合計	2012 合計
		再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時		
文化振興課管理業務	2.6				0.1	2.7	2.2
指定管理業務	1.7					1.7	4.1
文化振興業務	4.5					4.5	2.5
博物館業務	4.0			1.8	2.0	7.8	8.1
その他業務	0.2					0.2	0.9
2013年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	1.8	2.1	16.9	17.8
2012年度 歳出目 合計	14.0	0.0	1.0	0.9	1.9	17.8	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆所管施設全体の資産老朽化率が大幅減となった要因は、2012年度のポプリホール開館によるものです。博物館と市民ホールの2館が築約40年に達することから、今後の維持補修費の増額が予想されます。
 ◆所管4施設の利用料金収入を比較すると、2012年度比ポプリホールは229%、博物館は118%、市民ホールは90%、フォトサロン88%となっています。2012年度分ポプリホール利用料金収入が半年分の実績値しかないと考慮すると、他3施設の利用料金収入は前年度比98%と減少しています。今後は利用料金収入の安定的な確保と増加を図る必要があります。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆来年度で築40年に達する博物館と市民ホールの老朽化に計画的に対応する必要があります。市民ホールに関しては、既に2014年度にて大規模改修を実施することが決まっています。
 ◆ポプリホールの利用率が50%を切っています。また各施設の受益者負担率は一番低い施設では1.5%、一番高い施設でも40%という数値であることから、今後は各施設利用率と受益者負担率の上昇が課題となります。

2013年度 博物館事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費
事業類型	1:施設運営受益者負担型

I. 事業概要

事業目的	博物館事業の目的は、質が高く価値のある資料を収集・保存し、綿密な調査・研究に基づき魅力のある展覧会を企画・開催し、また、教育普及活動を始め関連する諸事業を実施することにより、文化芸術鑑賞に関心のある方々が文化・芸術に親しみ、知的好奇心を満足させ教養を高めることができる機会を提供することです。						
基本情報	根拠法令等 博物館法・町田市立博物館条例						
	2011年度			2012年度			2013年度
	施設名称		町田市立博物館				
	建設年月日		1973年3月31日				
利用料金収入 (単位:千円)		0	1,434	1,701			
受益者負担比率		-	1.1%	1.5%			
		2011年度		2012年度		2013年度	
資産老朽化比率		78.0%	80.0%	82.0%			

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆本年度7月から有料化しましたが、前年度に比べ入館者数が大幅に落ち込みました。施設の老朽化や立地の悪さ、主たる利用者層の高齢化等により、近年入館者数が減傾向にありましたが、有料化によりさらに市民の足が遠のいたと考えられます。立地条件の改善や老朽化した施設のリニューアルは困難であることから、現有施設で来館者を増やすためには、魅力ある展覧会の企画や効果的なPR等を検討することが大きな課題となります。
◆現在、新館再整備計画の策定作業を行っておりますが、現有施設は建築から40年が経過し老朽化が進んでいることから、現有施設で魅力ある展覧会事業を開催するためには、施設の維持管理を適切に行っていくことが課題となります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
入館者数	人	21,103	9,171	8,958	17,000	博物館の入館者数
講演会参加者数	人	338	372	344	400	展覧会関連事業として開催した講演会の参加者数

◆開館40周年事業として、ベトナム大使館後援のもと「ヴェトナム陶磁の二千年展」を開催し、大津市歴史博物館との共催による「大津絵大図解」展を開催したほか計5回の企画展を実施したことにより、文化芸術に関心を持つ多くの方々が高い展示品を鑑賞する機会を提供することができました。
◆展覧会の関連事業として、「ヴェトナム陶磁の二千年展」に併せ、町田市文化・国際交流財団の協力のもとベトナム民族楽器「トルン・コンサート」を和光大学ポプリホールで実施し、300人近い入場者がありました。また、玉川大学芸術学部、市立金井小学校と連携してサテライト展示「うつけ、ぼくらのカラフル龍」も和光大学ポプリホール内で開催しました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	51,892	46,967	△ 4,925	地方税	0	0	0
物件費	77,744	57,341	△ 20,403	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	47,892	23,574	△ 24,318	都支出金	25,181	0	△ 25,181
維持補修費	943	3,182	2,239	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	1,434	1,701	267
補助費等	645	1,423	778	その他	689	3,312	2,623
減価償却費	3,050	2,780	△ 270	行政収入 合計(a)	27,304	5,013	△ 22,291
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 108,705	△ 108,138	567
賞与・退職手当引当金繰入額	1,735	1,458	△ 277	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	136,009	113,151	△ 22,858	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 108,705	△ 108,138	567
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	15,769	4,358	△ 11,411
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	15,769	4,358	△ 11,411	当期収支差額 (e)+(h)	△ 92,936	△ 103,780	△ 10,844

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	使用料及手数料	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	博物館使用料 1,701千円	決算額の主な内訳	総合管理委託料 13,368千円 展示会等ポスター作成委託料 5,356千円 館蔵資料展示撤去委託料 1,981千円 など
主な増減理由	2013年度は、開館日数が増えて有料入館者が増えたことにより、267千円増加。	主な増減理由	2013年度は、緊急雇用創出事業(各種目録作成業務委託)が前年度で終了したことにより、20,403千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	空調調設備改修工事費 2,678千円 施設修繕料 504千円	決算額の主な内訳	物品売払収入 2,312千円 指定寄付金 1,000千円
主な増減理由	2013年度は、博物館空調調設備改修工事等の修繕があったことにより、2,239千円増加。	主な増減理由	2013年度は、開館日数が増えて図録頒布代が増えたこと、及び展示会出品者からの寄付があったことにより、2,623千円増加。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
入館者1人あたりコスト	人	2013	8,958	12,631	△ 2,199	主な理由として、緊急雇用創出事業費臨時特例補助金を使用した委託が減少したことにより、2012年度に比べて2,199円の減少。
		2012	9,171	14,830		
開館1日あたりコスト	日	2013	206	549,277	△ 193,942	主な理由として、緊急雇用創出事業費臨時特例補助金を使用した委託が減少したこと及び開館日数が増えたことにより、2012年度に比べて193,942円の減少。
		2012	183	743,219		
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2013	1,412.89	80,085	△ 16,178	主な理由として、緊急雇用創出事業費臨時特例補助金を使用した委託が減少したことにより、2012年度に比べて16,178円の減少。
		2012	1,412.89	96,263		

④貸借対照表

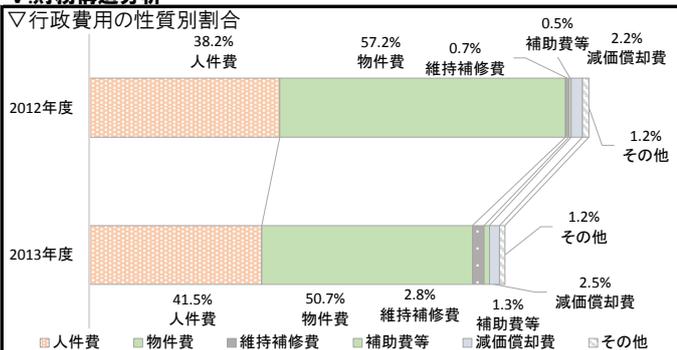
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,735	1,458	△ 277
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	27,800	25,020	△ 2,780	賞与引当金	1,735	1,458	△ 277
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物	139,000	139,000	0	固定負債	42,112	32,610	△ 9,502
	建物減価償却累計額	△ 111,200	△ 113,980	△ 2,780	地方債	0	0	0
	工作物	0	0	0	退職手当引当金	42,112	32,610	△ 9,502
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	43,847	34,068	△ 9,779
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	590,688	597,687	6,999
	資産の部合計	634,535	631,755	△ 2,780	負債及び純資産の部合計	634,535	631,755	△ 2,780

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	
決算額の主な内訳	市立博物館建物 139,000千円	決算額の主な内訳	館蔵芸術文化資料 556,735千円 資料収集基金 50,000千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	建物の減価償却により、2,780千円の減少。	主な増減理由		主な増減理由	

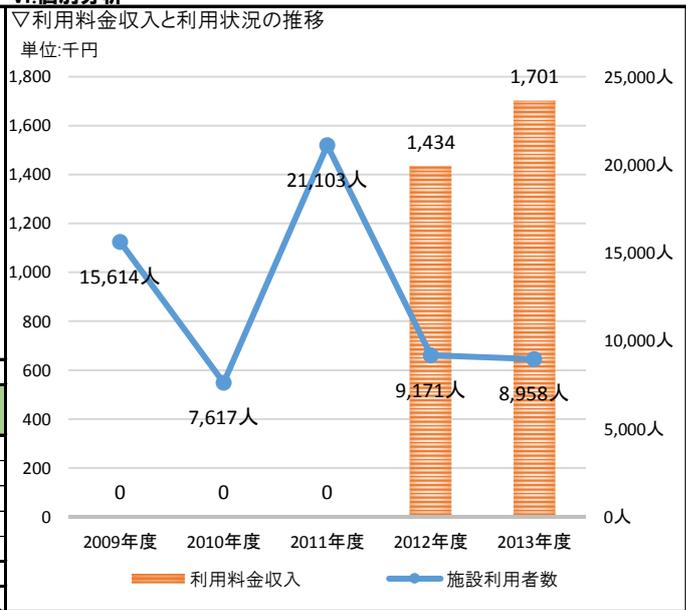
V.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013 合計	2012 合計
博物館管理事務	1.7					1.7	2.4
博物館展示事業	1.8			1.3	2.0	5.1	4.7
博物館普及事業	0.5			0.5		1.0	1.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	1.8	2.0	7.8	8.1
2012年度 特定事業 合計	4.3	0.0	1.0	0.9	1.9	8.1	

VI.個別分析



VII.総括

①成果および財務の分析

◆博物館事業は、施設の維持管理費や展覧会事業に伴う臨時職員賃金・通信運搬費・委託料等の物件費が行政費用の51%を占めています。人件費は42%を占めており、入館者一人当たりのコストとしては緊急雇用創出事業が前年度で終了したため、2013年度は2,199円減少しています。
 ◆2013年度はこれまで以上に企画展の魅力増進に力を注ぎ、その結果、減少傾向は緩やかなものとなりましたが、回復傾向には至っていません。事業や展示内容のPRが不十分であったことが大きな原因であると考えられます。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆今後は、文化芸術鑑賞に関心のある方々を惹きつけ、また、新たに多数の市民の関心を引き起こすような「魅力のある展覧会」の企画・運営に取り組み、併せて、より一層効果的なPRを図っていくことが課題となります。
 ◆博物館は建築後41年を経過し、建物・建築設備共に老朽化が進んでいることから、今後は適切な時期に適切な内容の維持管理(修繕等)を行っていくことが大切な課題となります。
 ◆展覧会ごとに行っている「来館者アンケート」を引き続き実施し、その内容を分析・評価し、次に活かすための積極的な振り返りをすることが課題です。

2013年度 フォトサロン事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費
事業類型	1:施設運営受益者負担型

I. 事業概要

事業目的	フォトサロン管理事務の目的は、市民に写真その他の文化芸術に関する活動の場を提供し、文化芸術の振興に寄与するため、展示会の開催や貸出施設等の利用に関する業務を行います。				
基本情報	根拠法令等 町田市フォトサロン条例				
		2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称
	利用料金収入 (単位:千円)	428	755	671	建設年月日
	受益者負担比率	-	6.0%	6.3%	2011年度
	所在地	町田市野津田町3272 薬師池公園内	2012年度	2013年度	2013年度
		資産老朽化比率	72.0%	74.0%	76.0%

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆指定管理料を減少させるために、事業実施による収入確保が課題です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
来館者数	人	35,993	37,978	34,757	37,978	町田市フォトサロンの来館者数
事業数	本	30	27	31	31	町田市フォトサロンが実施する事業数
成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆来館者数は、前年度比で約8%減ですが、これには2014年2月の大雪による来館者減の影響があります。 ◆実施した事業数は、前年度より4本多く、2013年度は平均すると月約2本以上の事業を行なっています。 ◆フォトサロンでの写真展開催だけでなく、薬師池公園など市の公園での風景や季節の花の撮影会、デジタル一眼や身近なコンパクトデジタルカメラなどの撮影教室、またスケッチや押し花など様々なイベントなども実施して、参加者から好評を得ています。 ◆成人式での撮影会、地元の夏祭りへの参加、高齢者施設での出前撮影講座、中学生の職場体験受け入れなど、地元貢献の面でも地域に欠かせない存在となっています。 					

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	2,561	464	△ 2,097	地方税	0	0	0
物件費	9,443	10,169	726	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	9,443	10,169	726	都支支出金	0	0	0
維持補修費	382	0	△ 382	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	0	0	0	その他	0	0	0
減価償却費	0	0	0	行政収入 合計(a)	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 12,494	△ 10,651	1,843
費与 退職手当引当金繰入額	108	18	△ 90	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	12,494	10,651	△ 1,843	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 12,494	△ 10,651	1,843
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	897	2,147	1,250
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	897	2,147	1,250	当期収支差額 (e)+(h)	△ 11,597	△ 8,504	3,093

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	フォトサロン指定管理業務に関する人件費 464千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	人事異動により、文化振興課内のフォトサロン担当者が変わり、人件費が1,169千円減少しました。さらに、事業に関わる人員の削減により、928千円削減しました。これらの合計で2,097千円が減少しました。	主な増減理由	2013年度は、指定管理者が発注する修繕はありましたが、市が直接発注する修繕はありませんでした。2012年度はフォトサロン壁面の補修工事があったため、その分の維持補修費は市が支出しました。
勘定科目	物件費	勘定科目	
決算額の主な内訳	フォトサロン指定管理料 10,169千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	増加は、2013年度からフォトサロンの電気使用量も指定管理料から支出することになり、その分の指定管理料を増額したためです。	主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2013	34,757	306	△ 23	2013年度は2012年度比で、施設利用者は約8%減でしたが、行政費用も約15%減だったため、全体で単位あたりコストが約7%減少しました。
		2012	37,978	329		
開館1日あたりコスト	日	2013	304	35,036	△ 10,069	2013年度は2012年度比で、開館日数は約8%増え、行政費用は約15%減だったため、全体で単位あたりコストが約22%減少しました。
		2012	277	45,105		
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2013	285	37,372	△ 6,467	床面積自体は年度間で変わりません。行政コストの15%削減がそのまま、㎡あたりコストの削減になっています。
		2012	285	43,839		

④貸借対照表

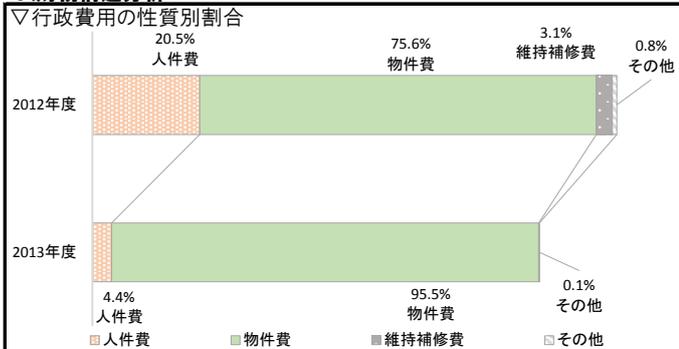
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		108	18	△ 90	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金		0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債		0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金		108	18	△ 90
		土地	0	0	0	その他の流動負債		0	0	0
		建物	0	0	0	固定負債		2,625	412	△ 2,213
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債		0	0	0
		工作物	0	0	0	退職手当引当金		2,625	412	△ 2,213
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	長期前受金		0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計		2,733	430	△ 2,303
		工作物	0	0	0	純資産		△ 2,733	△ 430	2,303
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0							
その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計		△ 2,733	△ 430	2,303		
資産の部合計	0	0	0	負債及び純資産の部合計		0	0	0		

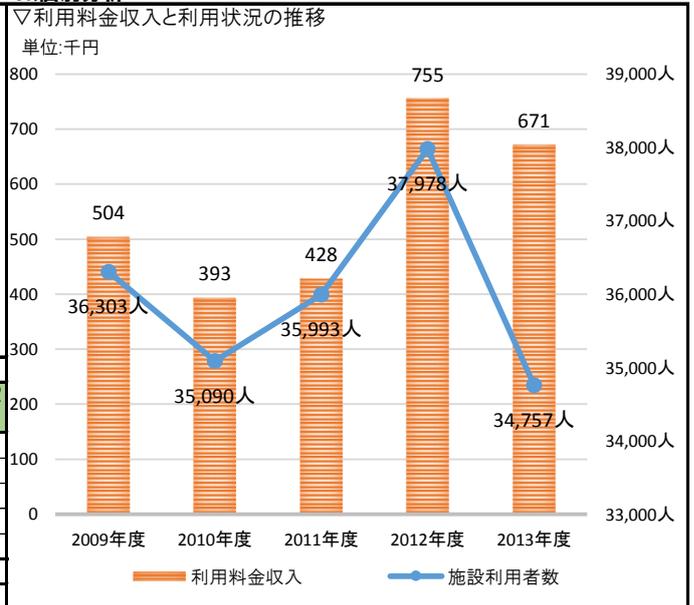
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013		2012	
						合計	合計		
フォトサロン指定管理業務進捗管理事務	0.1					0.1	0.3	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3		
2012年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3			

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆建物自体は他部署(公園緑地課)所管のため、資産の部に反映されません。しかし来年度で築40年に達し、今後は維持補修費が増大の見込みです。
- ◆今年度は単位あたりの行政コストが減少しましたが、これは人事異動により担当者が変わった影響が大部分です。
- ◆事務効率の向上(事業に関わる人員の削減)は限界に達しており、これ以上の向上は見込めません。
- ◆指定管理者制度のため、行政費用の95%以上が物件費(委託料)です。前年度は約2割あった人件費が、前述の人事異動で大幅低下したためです。
- ◆2013年度の利用料金収入は、前年度比では約11%減ですが、2009年から5年間平均(約550千円)の約22%増であり、全体としては増加傾向です。
- ◆VIのグラフでは一見2013年度の利用者数が大幅に減ったように見えますが、これは33,000人以下を省略表示したためです。実際には8%減です。
- ◆2012年度に利用料金収入と施設利用者数が増加したのは、施設貸出の利用率向上と、企画事業収入増加(特にピンホールカメラ教室)のためです。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆利用料金収入が2012年度以来、この2年間で大きく伸びているので、これをできるだけ伸ばし、またこの水準を安定して維持していくことが次の課題です。
- ◆出前撮影講座や中学生の職場体験など、地域貢献の分野での新しい取り組みも、同じく次の課題として定着を目指して続けていく意味があります。
- ◆2013年度の単位あたりの行政コストは、人事異動により大幅に減っています。この点で、来年度以降の単位あたりの行政コストが増加しやすい状態にあります。単年度の増減だけでなく、複数年度で傾向の経過観察を続けていきます。

2013年度 市民ホール事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費
事業類型	1:施設運営受益者負担型

I.事業概要

事業目的	市民ホール管理事務の目的は、市民の文化の向上と福祉の増進に寄与するため、文化の提供事業や文化活動の支援及び市民参加型事業を実施するとともに、市民ホールの貸出施設の利用に関する業務を行います。						
基本情報	根拠法令等 町田市民ホール条例、町田市民ホール条例施行規則						
	利用料金収入 (単位:千円)	2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	町田市民ホール	
	受益者負担比率	-	38.6%	40.1%	建設年月日	1977年2月24日	
					資産老朽化比率	2011年度	2012年度
					71.2%	73.1%	75.0%

II.2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆もともと市民ホールは、1973(昭和48)年にボーリング場としてオープンしましたが、ホール用に改修工事を行い1978(昭和53)年に町田市民ホールとしてオープンしました。ボーリング場だったときも含めると、建築から40年が経過しているため、今後維持補修費が増加することが見込まれます。
 ◆市派遣職員の解消とともに、企画・運営に携わる専門の人材等の確保と育成をはかっていることと、嘱託職員の正職員化により人的安定性は見込めるようになってきました。

III.事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
施設利用者数	人	256,440	249,513	263,147	263,147	市民ホールが主催、共催する事業の利用者数および貸出施設の利用者数
施設利用率	%	68.8	67.7	69.9	69.9	貸出施設の利用率

成果の説明

- ◆新5か年計画で予定していた利用者数を上回る施設利用がありました。
- ◆ホールの利用率は86.9%と高い水準を示しており、他の諸室の利用率も50%を超えており、昨年度の利用率を上回りました。
- ◆「ホールでピアノを弾いてみませんか?」という事業では、スタインウェイとヤマハの二台のピアノを弾いてもらうことにより、広く市民にグランドピアノに親しむ機会を提供することができました。
- ◆「バレエコンクール」「ピアノコンクール」「クラシックバレエ育成プログラム」の開催により、若手アーティストの育成、支援を推進しました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	6,771	7,332	561	地方税	0	0	0
物件費	148,842	145,223	△ 3,619	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	146,054	143,964	△ 2,090	都支出金	0	0	0
維持補修費	4,256	1,959	△ 2,297	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	0	0	0	その他	0	0	0
減価償却費	24,600	24,334	△ 266	行政収入 合計(a)	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 187,705	△ 179,736	7,969
賞与 退職手当引当金繰入額	3,236	888	△ 2,348	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	187,705	179,736	△ 7,969	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 187,705	△ 179,736	7,969
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 187,705	△ 179,736	7,969

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	維持補修費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	市民ホール施設修繕費 1,959千円	決算額の主な内訳	指定管理料 142,000千円 レストラン選定支援委託料 1,963千円
主な増減理由	維持補修費が2012年度に比べ、2,297千円の減少となっています。2012年度にはガラスひび割れ修繕がありました。2013年度にはそれらが減少したためです。	主な増減理由	指定管理委託料が2012年度に比べて4,054千円の減少となっています。
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2013	263,147	683	△ 69	施設利用者が増加したため、また、従業員の変更や修繕の減少により行政費用が減少したためです。
		2012	249,513	752		
開館1日あたりコスト	日	2013	331	543,009	△ 20,670	従業員の変更や、修繕の減少により行政費用が減少したためです。
		2012	333	563,679		
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2013	6,651	27,024	△ 1,198	従業員の変更や、修繕の減少により行政費用が減少したためです。
		2012	6,651	28,222		

④貸借対照表

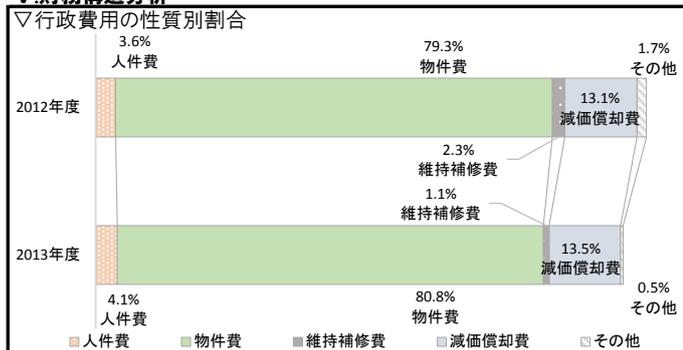
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		286	291	5	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	335,211	311,268	△ 23,943		賞与引当金	286	291	5
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物	1,197,184	1,197,184	0	固定負債		6,940	6,510	△ 430
		建物減価償却累計額	△ 861,973	△ 885,916	△ 23,943		地方債	0	0	0
		工作物	0	0	0		退職手当引当金	6,940	6,510	△ 430
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
		有形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0
		土地	0	0	0		長期前受金	0	0	0
		工作物	0	0	0	負債の部合計		7,226	6,801	△ 425
		工作物減価償却累計額	0	0	0	純資産		328,375	304,467	△ 23,908
	無形固定資産	0	0	0						
	建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計		328,375	304,467	△ 23,908	
	その他の固定資産	390	0	△ 390	負債及び純資産の部合計		335,601	311,268	△ 24,333	
	資産の部合計	335,601	311,268	△ 24,333						

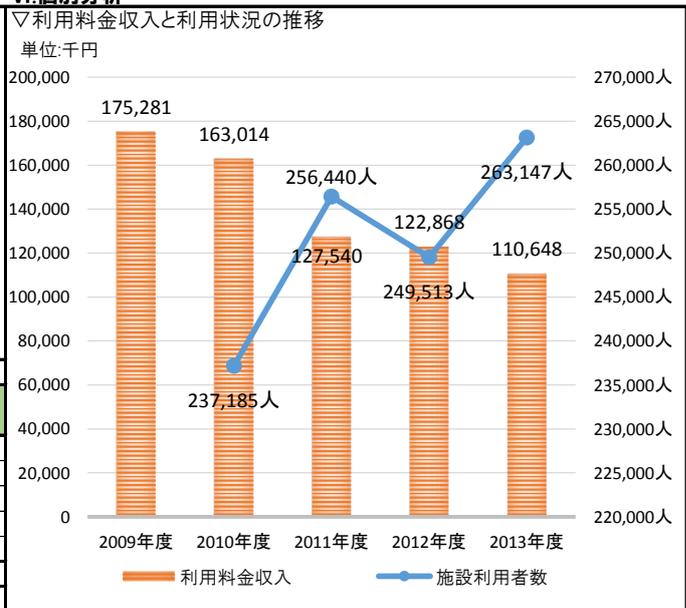
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	
決算額の主な内訳	市民ホール 1,197,184千円	決算額の主な内訳	ピアノ3台取得価格 25,070千円 大道具一式取得価格 9,730千円 仮設能舞台一式取得価格 3,380千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	建物の減価償却により、23,943千円の減少。	主な増減理由	ピアノ等重要物品の減価償却による390千円の減少。今年度で償却が終了となります。	主な増減理由	

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013	2012
						合計	合計
市民ホール指定管理業務事務	0.2					0.2	0.3
施設維持管理事務	0.1					0.1	0.3
レストラン運営に関する事務	0.1					0.1	0.1
レストラン選定支援業務	0.3					0.3	0.0
2014年度大規模改修に関する事務	0.2					0.2	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.7
2012年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆2012年度に比べ、行政費用合計は減少していますが、委託料が行政費用の割合のうち約8割を占めています。
 ◆建物の老朽化が進み、減価償却費の割合が高いです。今後も維持補修費の増大が見込まれます。
 ◆利用料金が2012年度に比べ、12,220千円減少していますが、これは主催事業の減少によるものです。ただし、主催事業が減少したことにより、主催事業実施に伴う委託料支出が、2009年度から2013年度にかかる利用料金の減収以上に減少しました。一方で、共催事業を増加しましたが、共催手数料はあまり伸びていません。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆建築から40年が経過しているため、2014年度には大規模修繕を行います。今後も維持補修費が増加することが見込まれます。
 ◆2014年度には大規模修繕による約5ヶ月間の全館休館を予定しているため、利用料金収入の減収が予想されます。
 ◆施設利用率・施設利用者数共に高水準ですが、利用料金収入が2009年度に比べ、2013年度は約3分の2に減少しています。これは主催事業の減少によるものですが、主催事業実施に伴う委託料支出が、利用料金の減収以上に減少しました。しかし、一公演当りのチケットの売上は減少傾向にあります。チケットの売上の推移や顧客の要望等を事業企画に反映させる必要があります。

2013年度 鶴川緑の交流館事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費
事業類型	1:施設運営受益者負担型

I. 事業概要

事業目的	鶴川緑の交流館事業の目的は、市民の芸術文化の創造活動及び地域的な共同活動その他の市民活動の推進を図り、もって魅力ある地域社会づくりに寄与することであり、ホール等の施設及び附属設備の貸し出しや市民の芸術文化の向上に資する事業を行います。						
基本情報	根拠法令等 町田市鶴川緑の交流館条例、町田市鶴川緑の交流館施行規則						
	利用料金収入 (単位:千円)	2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	町田市鶴川緑の交流館	
	受益者負担比率 (単位:%)	-	5.9%	9.6%	建設年月日	2012年9月27日	
					資産老朽化比率	2011年度	2012年度
					-	0.0%	3.2%

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆施設利用率を高めることで利用料金収入を増加させ、指定管理料を減少させることが課題です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
施設利用者数	人	-	31,739	80,184	85,000	施設(ホール、会議室等)の利用者数
施設利用率	%	-	58.8	47.9	65.0	施設(ホール、会議室等)の利用者率

成果の説明

- ◆2012年度は9月に開館したため、半年分の数値になっています。
- ◆新5か年計画で予定していた利用者数を上回る施設利用がありました。
- ◆ホールの利用率は81.9%と高い水準を示しておりますが、他の会議室等の施設利用率は低く、全体としては昨年度の利用率を下回りました。
- ◆市民協働事業として、施設内の壁面空間を利用した展示企画である「壁面プロデュースプロジェクト」を実施し、市民の作品を1ヶ月間展示しました。
- ◆施設内に併設されているカフェでサロンコンサートを開催し、この企画を観るために多くの方が来館しています。
- ◆「水曜午後の音楽会」と称して、若手アーティストのコンサートを低価格で開催しています。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	30,092	5,299	△ 24,793	地方税	0	0	0
物件費	179,003	147,906	△ 31,097	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	108,980	147,894	38,914	都支支出金	0	0	0
維持補修費	28,714	213	△ 28,501	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	2,284	1,549	△ 735	その他	11,750	4,500	△ 7,250
減価償却費	0	91,573	91,573	行政収入 合計(a)	11,750	4,500	△ 7,250
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 238,813	△ 242,250	△ 3,437
賞与 退職手当引当金繰入額	10,470	210	△ 10,260	金融収支差額 (d)	△ 4,451	△ 9,872	△ 5,421
行政費用 合計 (b)	250,563	246,750	△ 3,813	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 243,264	△ 252,122	△ 8,858
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	25,394	25,394
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	25,394	25,394	当期収支差額 (e)+(h)	△ 243,264	△ 226,728	16,536

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	人件費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 146,771千円 家屋調査委託料 913千円 市民提案型事業委託料 210千円	決算額の主な内訳	指定管理関連事務や市民協働事業などに伴う人件費 5,299千円
主な増減理由	2012年度は9月開館だったため、指定管理料は半年分でした。2013年度は、指定管理料が1年分かかっているため、委託料は38,914千円増ですが、物件費全体では、31,097千円減少。これは開館記念事業等の費用がなくなったためです。	主な増減理由	事務担当職員の減員により、人件費が24,793千円減少。
勘定科目	減価償却費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	減価償却費 91,573千円	決算額の主な内訳	施設修繕料 213千円
主な増減理由	建設から1年経過したことにより、減価償却費91,573千円が発生したことが原因です。	主な増減理由	2012年度は開館初年度で追加工事を行いました。2013年度は施設修繕のみだったため、28,501千円減少。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2013	80,184	3,077	△ 4,817	2012年度の開館時と比べ行政費用が減少したこと、施設利用者が増加したことが要因です。
		2012	31,739	7,894		
開館1日あたりコスト	日	2013	319	773,511	△ 773,174	2012年度は開館初年度のため9月からの開館日数になっています。行政費用が減少したこと、開館日数が増加したことが要因です。
		2012	162	1,546,685		
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2013	4,568	54,017	△ 835	2012年度の開館時と比べ、行政費用が減少したことが要因です。
		2012	4,568	54,852		

④貸借対照表

(単位:千円)

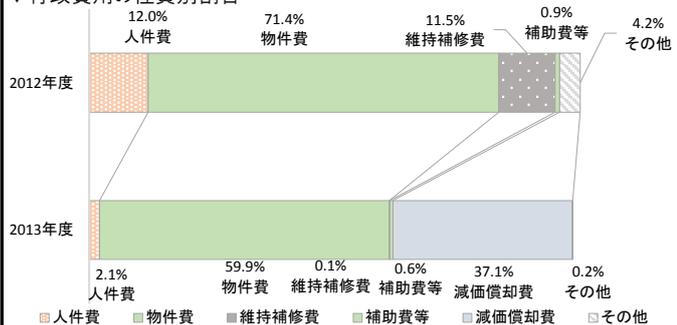
勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		1,271	13,666	12,395
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	13,456	13,456
固定資産	有形固定資産	3,218,774	3,132,202	△ 86,572		賞与引当金	1,271	210	△ 1,061
	土地	398,424	398,424	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物	2,820,350	2,820,350	0	固定負債		1,762,841	1,723,249	△ 39,592
	建物減価償却累計額	0	△ 86,572	△ 86,572		地方債	1,732,000	1,718,544	△ 13,456
	工作物	0	0	0		退職手当引当金	30,841	4,705	△ 26,136
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	1,764,112	1,736,915	△ 27,197
	その他の固定資産	25,004	20,003	△ 5,001	純資産		1,479,666	1,415,290	△ 64,376
資産の部合計	3,243,778	3,152,205	△ 91,573	負債及び純資産の部合計		3,243,778	3,152,205	△ 91,573	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)
決算額の主な内訳	音楽用機器 22,611千円 調理用機器 1,313千円 生活文化用機器 1,080千円	決算額の主な内訳	鶴川緑の交流館用地 398,424千円	決算額の主な内訳	鶴川緑の交流館 2,820,350千円
主な増減理由	重要物品減価償却累計額 5,001千円 ピアノ等重要物品の減価償却による減少。	主な増減理由		主な増減理由	減価償却額 86,572千円

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



▽事業に関わる人員

業務内容	2013年度					2012年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	合計	合計
鶴川緑の交流館管理事務	0.6					0.6	3.1
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	3.1
2012年度 特定事業 合計	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆開館初年度に必要であった開館記念事業委託費や追加工事費、それらに伴う人件費といった費用がなくなったため、行政費用合計は減少しています。
- ◆行政費用のうち指定管理料などの委託料の占める割合が大きいです。
- ◆利用料金収入と施設利用者数は大幅に増加していますが、2012年9月開館で2012年度は半年分の実績のためです。
- ◆2013年度から定期的にホールで水曜午後の音楽会を行ったことなどで、1回の事業における施設利用者数を増加させていますが、施設利用率自体は下がっています。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆2013年度で初めて年間を通じた事業の成果およびそれに伴う収支が出たため、これを指標として次年度以降の検討をする必要があります。
- ◆2012年度と比べると維持補修費は下がっていますが、現在においても修繕を必要とする箇所があり、対応が必要です。
- ◆ホール以外の施設利用率が低く、全体の利用率を引き下げる要因になっています。その点を改善し、指定管理料を減少させるために利用料金収入を増加させる必要があります。

2013年度 文化スポーツ振興部 スポーツ振興課の財務諸表

歳出目名称	スポーツ振興費
事業類型	a:施設所管型

I. 組織概要

組織の使命	スポーツ振興課のミッションは、市民の自主的なスポーツ活動を支えること、市民が気軽にトップスポーツに親しむことができる環境を整えること、また、良好なスポーツ施設を維持管理することにより、多くの市民にスポーツを通して健康で心身ともに充実した生活を提供し、活力あるまちづくりに貢献することです。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 体育施設に関するこの管理や整備に関すること ◆ 学校施設等のスポーツ開放に関すること ◆ ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア、ASVベスカドーラ町田、キャノンイーグルス)の支援に関すること ◆ 地域スポーツクラブの整備や支援に関すること ◆ スポーツ振興事業に関すること ◆ 各種団体等との連携推進に関すること

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

<ul style="list-style-type: none"> ◆ 55億円の有形固定資産を有し、所管施設全体の資産老朽化比率は4.7%と高い水準となっています。特に総合体育館(48.1%)及び室内プール(46.1%)は、築造から20年以上が経過し、今後、施設の維持管理が重要な課題となります。 ◆ 市負担額が行政費用の98.0%を占めています。今後、施設整備等の事業を進めていくにあたり、国や東京都の補助金を活用し市負担額を抑えることが求められます。 ◆ 利用料金が指定管理者の収入となる利用料金制度を採用しているため、収支管理のモニタリング等により指定管理料が適正かどうか管理していく必要があります。
--

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
地域スポーツクラブ数	クラブ	3	4	4	8	地域スポーツクラブの数
ホームゲーム平均観戦者数 ①FC町田ゼルビア②ASVベスカドーラ町田③キャノンイーグルス	人	①3,515 ②1,016 ③未集計	①3,627 ②1,283 ③約2,500	①3,174 ②1,296 ③4,340	①7,000 ②1,500 ③3,000	ホームタウンチームの平均観客数
夜間照明設置箇所数	箇所	7	7	7	12	夜間照明設備設置箇所数
成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域スポーツクラブの周知などにより、設立や運営の支援を実施しました。 ◆ 市主催イベントやシティセールスの取り組みとして、様々なイベントにホームタウンチームのブースを設けたり、選手やマスコットキャラクターの出演する機会を設けたりするなど、広く市民にチームの周知を図り、観戦者数の増加に努めました。 ◆ 夜間照明の設置については、設置場所の選定に至りませんでした。 					

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	93,330	110,733	17,403	地方税	0	0	0
うち時間外勤務手当	9,339	11,582	2,243	保険料	0	0	0
物件費	556,310	547,319	△ 8,991	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	517,607	502,781	△ 14,826	都支出金	0	0	0
維持補修費	66,049	18,412	△ 47,637	行政収入	0	0	0
扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
補助費等	47,120	62,393	15,273	使用料及手数料	10,251	9,793	△ 458
減価償却費	224,927	227,416	2,489	その他	9,999	23,020	13,021
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収入 小計(a)	20,250	32,813	12,563
賞与・退職手当引当金繰入額	28,541	26,979	△ 1,562	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 996,027	△ 960,439	35,588
行政費用 小計 (b)	1,016,277	993,252	△ 23,025	金融収支差額 (d)	△ 1,429	△ 1,229	200
特別費用 (g)	28	0	△ 28	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 997,456	△ 961,668	35,788
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 28	0	28	特別収入 小計 (f)	0	0	0
				当期収支差額 (e)+(h)	△ 997,484	△ 961,668	35,816

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	体育施設指定管理料 426,342千円 学校温水プール総合管理業務委託 53,140千円 室内プール駐車場用地賃賃借 10,710千円	決算額の主な内訳	学校施設使用料 9,793千円
主な増減理由	指定管理者が実施する事業を見直し2013年度の指定管理料の減額や学校温水プールの管理業務委託を全施設一括で委託したことによる支出の減少、三輪みどり山球場の枯松伐採等当初の予定になかった緊急の支出により、合計で8,991千円の減少	主な増減理由	学校温水プールにおいて、設備の不具合が発生し、プールの開放ができなかったことにより、458千円の減少
勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	総合体育館:メインアリーナ観客席天井ボード張替工事 2,208千円 室内プール:笠木修繕 3,885千円、非常用照明器具修繕 2,887千円、男子便所フラッシュバルブ他改修工事 1,518千円 市内スポーツ広場修繕 3,931千円	決算額の主な内訳	指定管理料返還金 18,988千円 体育協会補助金精算金 2,100千円 多摩・島しょスポーツ振興事業助成金 1,000千円
主な増減理由	2012年度に総合体育館や室内プールで外溝等改修工事やハロン消火設備交換修繕など大きな修繕を施工したことにより、47,637千円の減少	主な増減理由	2012年度以前の指定管理料の一部返還による収入の増加、多摩・島しょスポーツ振興事業助成金の減少等により、合計で13,021千円の増加

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	57,340	11,583	△ 45,757	流動負債	14,671	15,553	882
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	11,126	11,350
固定資産	有形固定資産	7,411,915	7,253,422	△ 158,493		賞与引当金	3,545	4,203
	土地	1,913,485	1,913,485	0		その他の流動負債	0	0
	建物	10,318,130	10,372,360	54,230	固定負債	155,828	152,429	△ 3,399
	建物減価償却累計額	△ 4,853,437	△ 5,073,952	△ 220,515		地方債	69,786	58,436
	工作物	82,547	94,556	12,009		退職手当引当金	86,042	93,993
	工作物減価償却累計額	△ 48,810	△ 53,027	△ 4,217		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0
	建設仮勘定	0	4,390	4,390		負債の部合計	170,499	167,982
	その他の固定資産	7,000	4,316	△ 2,684	純資産	7,305,756	7,105,729	△ 200,027
資産の部合計	7,476,255	7,273,711	△ 202,544	負債及び純資産の部合計	7,476,255	7,273,711	△ 202,544	

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	総合体育館土地 764,504千円 室内プール土地 139,685千円 室内プール駐車場用地 61,384千円 スポーツ広場土地 947,912千円	決算額の主な内訳	総合体育館建物 7,221,332千円 室内プール建物 3,006,557千円 成瀬クリーンセンターテニスコート 53,300千円など	決算額の主な内訳	ゆりーとモニュメント時計塔 4基 6,198千円 大型懸垂幕掲出装置 3,223千円 三面自立広告塔 2基 1,050千円 電光表示装置付壁掛看板 1,538千円
主な増減理由		主な増減理由	総合体育館サブアリーナ棟雨漏り改修工事、武蔵岡中学校クラブハウス新築工事により、54,230千円の増加	主な増減理由	スポーツ祭東京2013の開催に伴い、国体推進課が各会場に設置した工作物の引継ぎを受けたことにより、12,009千円の増加

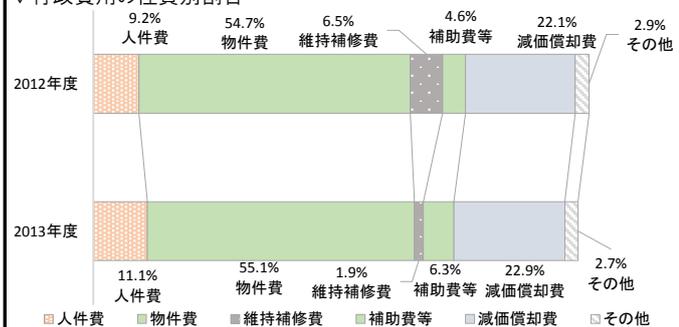
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	32,813	社会資本整備等投資活動収入	26,126	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	758,456	社会資本整備等投資活動支出	58,620	財務活動支出	11,126
行政サービス活動収支差額(a)	△ 725,643	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 32,494	財務活動収支差額(c)	△ 11,126
V.財務構造分析			収支差額 合計 (a)+(b)+(c)		
			△ 769,263		
			一般財源充当調整額		
			769,263		

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

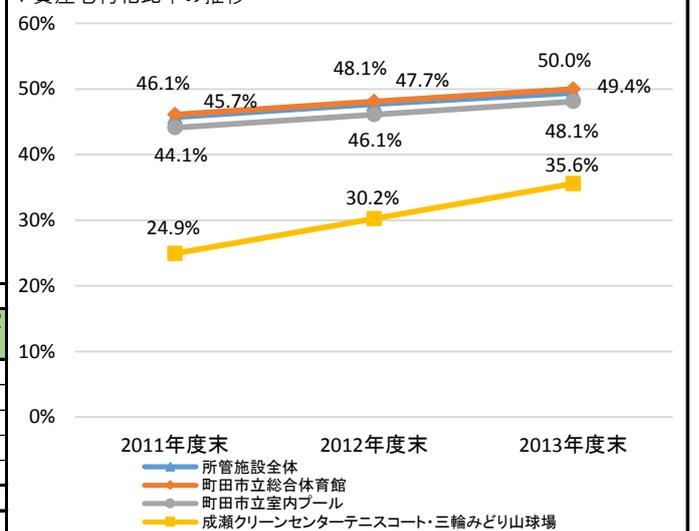


▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用			臨時	2013/2012	
		フルタイム	短時間	嘱託		合計	合計
施設管理事務	4.8				4.8	5.0	
ホームタウンチーム支援事務	1.0				1.0	1.5	
地域スポーツクラブ事務	2.1				2.1	0.4	
スポーツ振興事務	6.1				6.1	5.4	
2013年度 歳出目 合計	14.0	0.0	0.0	0.0	14.0	12.3	
2012年度 歳出目 合計	10.0	0.0	1.0	0.0	1.3	12.3	

VI.個別分析

▽資産老朽化比率の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆指定管理者が行う業務の確認を行い、2012年度以前の指定管理料の返還及び2013年度の指定管理料の減額を行いました。
- ◆学校温水プールの管理業務委託を全施設を一括で委託したことにより経費の削減を図りました。
- ◆総合体育館の改修工事の施工及び武蔵岡中学校にクラブハウスを設置しました。
- ◆2012年度と比較し維持補修費が大幅に減少しています。これは、施設の維持修繕にかかる経費の確保が難しい状況になっているためです。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆指定管理者が管理する施設においては、指定管理者との連携を強化し、予算を確保することで利用者サービスの向上を図っていく必要があります。あわせて、モニタリング等により、事業内容や指定管理料が適正であるかどうか確認していく必要があります。
- ◆施設の老朽化が進む中、維持管理経費の確保が課題になっています。計画的に修繕を行う必要があります。

2013年度 体育館事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
事業類型	1:施設運営受益者負担型

主管課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	町田市立総合体育館の施設と、附属設備の維持管理を適切に行います。 市民が気軽にスポーツを楽しむ場所を提供するとともに、観るスポーツの提供を図ります。							
基本情報	根拠法令等 町田市体育施設条例							
		2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	町田市立総合体育館		
	利用料金収入 (単位:千円)	58,425	56,048	51,479	建設年月日	1990年9月1日		
	受益者負担比率	-	8.1%	8.2%		2011年度	2012年度	2013年度
					資産老朽化比率	46.1%	48.1%	50.0%

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

- ◆建物資産の老朽化比率が48.1%と高い水準となっており、施設では雨漏りが発生しています。今後、更に維持管理経費の増加が見込まれるため、施設の長寿命化を図る等の検討を具体的に行っていく必要があります。
- ◆建替更新を行う際には、民間の類似サービス施設との差別化や施設のあり方を検討する必要があります。また、利用料金が指定管理者の収入となる利用料金制度を採用しているため、指定管理者の収支管理のモニタリングを行い、指定管理料が適正かどうか管理していく必要があります。
- ◆受益者負担の割合が現在12.6%となっており、当施設の受益者負担について分析を行っていく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
総合体育館利用者数	人	391,604	437,450	441,756	438,000	総合体育館の利用者数。各種大会等の開催に伴う大会参加者、指定管理者が実施する自主事業のイベント参加者が含まれています。
成果の説明	◆より多くの方々に総合体育館を知ってもらうため、こどもの日や体育の日に無料のイベントを実施しました。					

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	4,497	3,108	△ 1,389	地方税	0	0	0
物件費	248,978	235,271	△ 13,707	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	248,579	234,099	△ 14,480	都支支出金	0	0	0
維持補修費	43,052	4,489	△ 38,563	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	10	10	0	その他	5,022	15,541	10,519
減価償却費	157,008	159,496	2,488	行政収入 合計(a)	5,022	15,541	10,519
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 449,237	△ 386,954	62,283
賞与 退職手当引当金繰入額	714	121	△ 593	金融収支差額 (d)	△ 107	△ 127	△ 20
行政費用 合計 (b)	454,259	402,495	△ 51,764	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 449,344	△ 387,081	62,263
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	729	729
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	729	729	当期収支差額 (e)+(h)	△ 449,344	△ 386,352	62,992

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	指定管理料 233,096千円	決算額の主な内訳	指定管理料返還金 15,541千円
主な増減理由	指定管理者が実施する事業を見直し2013年度の指定管理料を減額したことや備品購入による支出の増加により、合計13,707千円の減少	主な増減理由	2012年度以前の指定管理料の一部返還による収入の増加、スポーツ振興くじ助成金の減少により、合計で10,519千円の増加
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	メインアリーナ観客席天井ボード張替工事 2,208千円 音響設備修繕 1,155千円 弓道場廊下内装修繕 522千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	外溝等改修工事、ハロン消火設備交換修繕、外灯交換新設工事など大きな修繕を2012年度に施工したことにより、合計で38,563千円の減少	主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
総合体育館利用者1人あたりコスト	人	2013	441,756	911	△ 127	2012年度と比較し、利用者が増加したこと、事業費が減少したことから、一人あたりのコストが127円減少しました。
		2012	437,450	1,038		
総合体育館1日あたりコスト	日	2013	335	1,201,478	△ 154,519	事業費が減少したため、一日あたりのコストが154,519円減少しました。
		2012	335	1,355,997		
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2013	24,767	16,252	△ 2,090	事業費が減少したため、建物延面積1平米あたりのコストが、2,090円減少しました。
		2012	24,767	18,342		

④貸借対照表

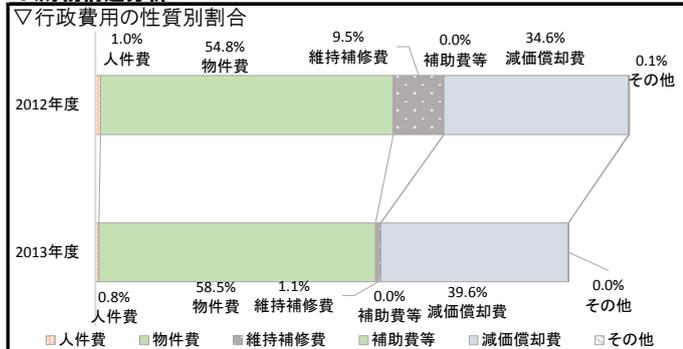
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		159	121	△ 38
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	4,535,497	4,405,464	△ 130,033	賞与引当金	159	121	△ 38	
	土地	764,504	764,504	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物	7,199,974	7,221,332	21,358	固定負債	26,868	25,711	△ 1,157	
	建物減価償却累計額	△ 3,428,981	△ 3,585,793	△ 156,812	地方債	23,000	23,000	0	
	工作物	0	5,421	5,421	退職手当引当金	3,868	2,711	△ 1,157	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0	
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	27,027	25,832	△ 1,195	
	その他の固定資産	7,000	4,316	△ 2,684	純資産	4,515,470	4,383,948	△ 131,522	
資産の部合計	4,542,497	4,409,780	△ 132,717	純資産の部合計	4,515,470	4,383,948	△ 131,522		
				負債及び純資産の部合計	4,542,497	4,409,780	△ 132,717		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	総合体育館土地 764,504千円	決算額の主な内訳	総合体育館建物 7,221,332千円	決算額の主な内訳	ゆりーとモニュメント時計塔 2,197千円 大型懸垂幕掲出装置 3,224千円
主な増減理由		主な増減理由	サブアリーナ棟雨漏り改修工事により、21,358千円の増加	主な増減理由	スポーツ祭東京2013の開催に伴い、国体推進課が総合体育館に設置した工作物の引継ぎを受けたことにより、5,421千円の増加

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013年度		2012年度	
						合計	合計		
総合体育館管理事務	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2		
2012年度 特定事業 合計	0.05	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2			

VII.総括

①成果および財務の分析

◆指定管理者が行う業務の確認を行い、指定管理料の返還及び減額を図りました。
 ◆維持補修費について、2012年度と比較し大幅に減少しています。これについては、施設の維持補修にかかる予算を確保できない状況にあるためです。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆施設の利用者へのサービスが向上するように、指定管理者との連携を強化し、必要なところに予算を集中させるとともに、モニタリング等により、事業内容や指定管理料が適正かどうか確認していく必要があります。
 ◆施設の老朽化が進み、維持補修の経費が増えていくことが予想される中、施設の修繕を計画的に実施し、その財源を確保していく必要があります。

2013年度 室内プール事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
-----	-----------

主管課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費	事業類型	1.施設運営受益者負担型
------	---------	------	---------	------	--------------

I.事業概要

事業目的	町田市立室内プール施設と、付属設備の維持管理を適切に行います。 市民が気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。
------	---

基本情報	根拠法令等	町田市体育施設条例			施設の名称	町田市立室内プール		
	利用料金収入 (単位:千円)	2011年度	2012年度	2013年度	建設年月日	1989年10月2日		
	受益者負担比率	46,978	43,088	43,360				
		-	10.1%	10.2%		2011年度	2012年度	2013年度
					資産老朽化比率	44.1%	46.1%	48.1%

II.2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

- ◆建物資産の老朽化比率が46.1%と高く、施設では雨漏りや結露による腐食が発生しています。今後、維持管理経費の増加が見込まれ、施設の長寿命化を図る等の検討が必要です。また、建替を行う際には、類似サービス施設との差別化や施設のあり方を検討する必要があります。
- ◆指定管理者の収支管理のモニタリングを行い、指定管理料が適正かどうか管理していく必要があります。利用者数及び利用料金が前年度比で減っていることについて、2012年度から実施した駐車場の有料化が少なからず影響していると思われませんが、2013年度の実績に注視していく必要があります。
- ◆受益者負担の割合が現在17.7%となっており、当施設の受益者負担について分析を行っていく必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
室内プール利用者数	人	263,593	246,833	249,739	250,000	プールやトレーニング室の利用者数。水泳大会開催に伴う大会参加者、指定管理者が実施する自主事業のイベント参加者が含まれています。

- 成果の説明
- ◆指定管理者が年間を通じて実施する水泳教室等の事業に対して、延べ14,000人の利用がありました。
 - ◆2013年度の9月と3月にプール祭りを実施し、合わせて約3,500人の来場者がありました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	3,937	2,676	△ 1,261	地方税	0	0	0
物件費	194,694	196,787	2,093	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	181,273	183,218	1,945	都支支出金	0	0	0
維持補修費	16,983	8,942	△ 8,041	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	0	0	0	その他	0	3,448	3,448
減価償却費	60,131	60,131	0	行政収入 合計(a)	0	3,448	3,448
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 277,999	△ 265,192	12,807
賞与・退職手当引当金繰入額	2,254	104	△ 2,150	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	277,999	268,640	△ 9,359	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 277,999	△ 265,192	12,807
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	997	997
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	997	997	当期収支差額 (e)+(h)	△ 277,999	△ 264,195	13,804

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	指定管理料 183,218千円 利用者駐車場用地賃借 11,019千円	決算額の主な内訳	指定管理料返還金 3,448千円
主な増減理由	指定管理料の増加(指定管理者が提出した5か年の事業計画書の金額によるもの)、駐車場用地借上料の減少により、合計2,093千円の増加	主な増減理由	2012年度以前の指定管理料の一部返還により、3,448千円の増加
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	笠木修繕 3,885千円 非常用照明器具修繕 2,887千円 男子便所フラッシュバルブ他改修工事 1,518千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	真空・給水ポンプ更新工事、高圧受電用区分開閉器更新工事、ハロン消火設備交換修繕など大きな修繕を2012年度に施工したことにより、合計で3,041千円の減少	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
室内プール利用者1人あたりコスト	人	2013	249,739	1,076	△ 50	2012年度と比較し、利用者が増加したこと、事業費が減少したことから、一人あたりのコストが50円減少しました。
		2012	246,833	1,126		
室内プール1日あたりコスト	日	2013	319	842,132	△ 8,018	緊急修繕のため休館したことから開館日数は前年度より少なくなっていますが、事業費の減少もあったため、一日あたりのコストが8,018円減少しました。
		2012	327	850,150		
延べ床面積1㎡あたりコスト		2013	8,344	32,196	△ 1,121	事業費が減少したため、建物延面積1平米あたりのコストが、1,121円減少しました。
		2012	8,344	33,317		

④貸借対照表

(単位:千円)

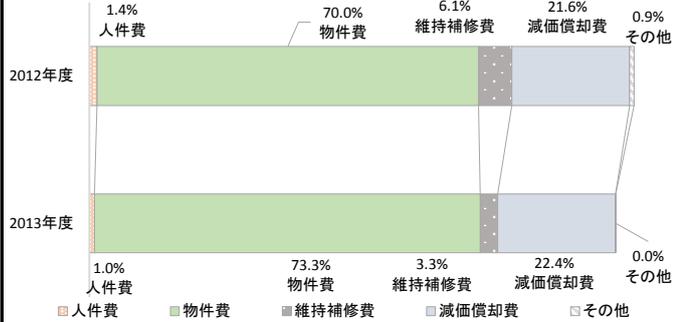
勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		152	104	△ 48
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	1,824,610	1,764,479	△ 60,131	賞与引当金	152	104	△ 48	
	土地	201,069	201,069	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物	3,006,557	3,006,557	0	固定負債	3,699	2,334	△ 1,365	
	建物減価償却累計額	△ 1,383,016	△ 1,443,147	△ 60,131	地方債	0	0	0	
	工作物	0	0	0	退職手当引当金	3,699	2,334	△ 1,365	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0	
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	3,851	2,438	△ 1,413	
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	1,820,759	1,762,041	△ 58,718	
資産の部合計	1,824,610	1,764,479	△ 60,131	純資産の部合計	1,820,759	1,762,041	△ 58,718		
				負債及び純資産の部合計	1,824,610	1,764,479	△ 60,131		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	室内プール土地 139,685千円 室内プール駐車場用地 61,384千円	決算額の主な内訳	室内プール建物 3,006,557千円	決算額の主な内訳	
	主な増減理由		室内プール建物の減価償却により、60,131千円の減少		主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

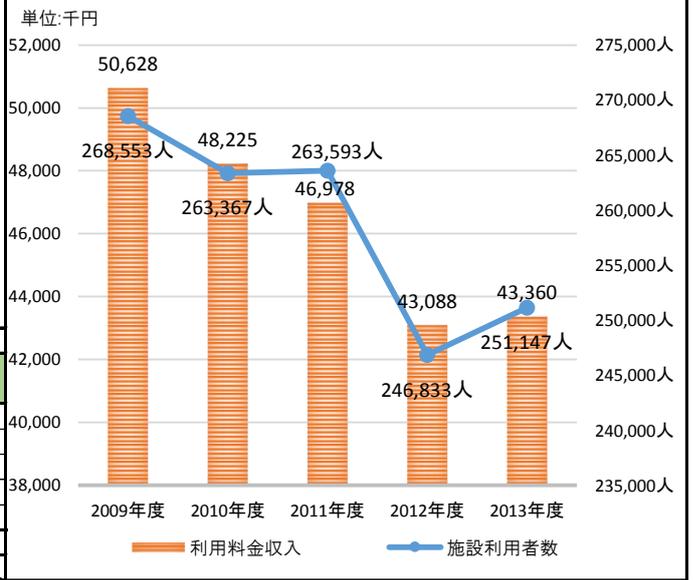


▽事業に関わる人員

業務内容	2013年度					2012年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	合計	合計
室内プール管理事務	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
2012年度 特定事業 合計	0.05	0.0	0.05	0.0	0.0	0.1	

VI.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

◆指定管理者が行う業務の確認を行い、2012年度以前の指定管理料の返還を行いました。
 ◆維持補修費について、前年度と比較し大幅に減少しています。これについては、施設の維持補修にかかる予算を確保できない状況にあるためです。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆施設の利用者へのサービスが向上するように、指定管理者との連携を強化し、必要なところに予算を集中させるとともに、モニタリング等により、事業内容や指定管理料が適正かどうか確認していく必要があります。
 ◆施設の老朽化が進み、維持補修の経費が増えていくことが予想される中、施設の修繕を計画的に実施し、その財源を確保していく必要があります。

2013年度 球場・コート施設事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
事業類型	1:施設運営受益者負担型

主管課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
------	---------	------	---------

I.事業概要

事業目的	成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場施設及び附属設備の維持管理を適正に行います。市民が気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。							
基本情報	根拠法令等	町田市体育施設条例					施設の名称	成瀬クリーンセンターテニスコート・三輪みどり山球場
	利用料金収入 (単位:千円)	2011年度	2012年度	2013年度	建設年月日	1997年12月10日・1988年4月23日		
	受益者負担比率	-	76.8%	78.6%	2011年度	2012年度	2013年度	
	資産老朽化比率	24.9%	30.2%	35.6%				

II.2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

- ◆建物と工作物の老朽化率は、30.2%とそれほど高いものではありませんが、現在テニスコートの一部にひび割れ等が発生し、都度対応している状況で、プレーに支障があるとの意見を多数いただきます。将来的にはコート全面の張り替えが必要になります。
- ◆利用料金が指定管理者の収入となる利用料金制度を採用しています。あわせて、受益者負担の割合が100%を越えている現状も鑑み、モニタリング等により適正に管理していく必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
成瀬クリーンセンターテニスコート利用者数	人	83,547	90,295	91,519	92,000	一般利用者のほかテニス大会開催に伴う大会参加者、指定管理者が実施する自主事業のイベント参加者が含まれています。
三輪みどり山球場利用者数	人	15,482	17,593	14,966	18,000	一般利用者のほか野球大会開催に伴う大会参加者、指定管理者が実施する自主事業のイベント参加者が含まれています。
成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆成瀬クリーンセンターテニスコートにおいて、こどもの日及び体育の日に新規スポーツイベントを開催しました。 ◆三輪みどり山球場では、毎年自主事業として少年野球教室を開催していましたが、2013年度は荒天のため実施できませんでした。 					

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	1,159	719	△ 440	地方税	0	0	0
物件費	10,051	11,288	1,237	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	10,051	11,288	1,237	都支出金	0	0	0
維持補修費	2,728	221	△ 2,507	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	0	0	0	その他	0	0	0
減価償却費	6,066	6,066	0	行政収入 合計(a)	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 20,221	△ 18,322	1,899
賞与・退職手当引当金繰入額	217	28	△ 189	金融収支差額 (d)	△ 1,322	△ 1,103	219
行政費用 合計 (b)	20,221	18,322	△ 1,899	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 21,543	△ 19,425	2,118
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	228	228
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	228	228	当期収支差額 (e)+(h)	△ 21,543	△ 19,197	2,346

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 10,028千円 三輪みどり山球場枯損樹木伐採 1,260千円	決算額の主な内訳	三輪みどり山球場セーフティガード修繕 221千円
主な増減理由	三輪みどり山球場において害虫駆除のための樹木伐採が必要になったことによる支出の増加、指定管理料の減少により、合計1,237千円の増加	主な増減理由	2013年度は緊急を要する修繕を行い、フェンスにセーフティガードを設置しました。緊急修繕案件が少なかったことにより、2,507千円の減少
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2013	106,485	172	△ 15	2012年度と比較し、事業費が減少したことから、一人あたりのコストが15円減少しました。
		2012	107,888	187		
		2013				
		2012				
		2013				
		2012				

④貸借対照表

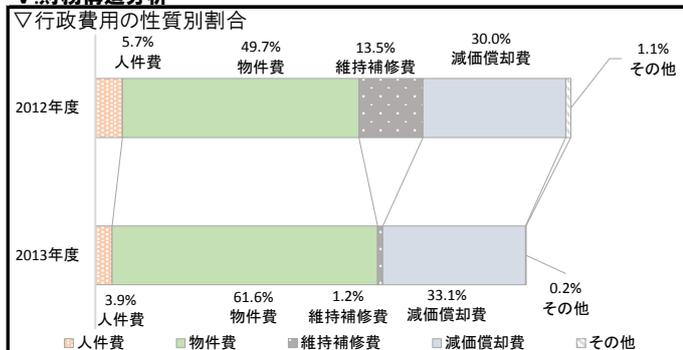
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		11,165	11,378	213	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	11,126	11,350	224	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	78,402	72,336	△ 6,066		賞与引当金	39	28	△ 11
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物	70,230	70,230	0	固定負債		47,740	36,063	△ 11,677
		建物減価償却累計額	△ 25,565	△ 27,414	△ 1,849		地方債	46,786	35,436	△ 11,350
		工作物	42,171	42,171	0		退職手当引当金	954	627	△ 327
	工作物減価償却累計額	△ 8,434	△ 12,651	△ 4,217		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0		負債の部合計	58,905	47,441	△ 11,464
		工作物	0	0	0	純資産		19,497	24,895	5,398
工作物減価償却累計額		0	0	0		純資産の部合計	19,497	24,895	5,398	
無形固定資産		0	0	0		資産の部合計	78,402	72,336	△ 6,066	
建設仮勘定	0	0	0		負債及び純資産の部合計	78,402	72,336	△ 6,066		
その他の固定資産	0	0	0							

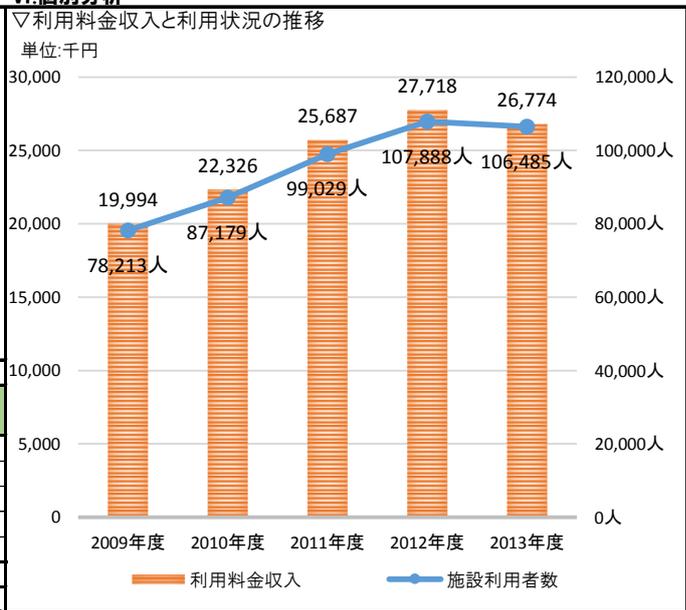
⑤貸借対照表の特記事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	工作物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	成瀬クリーンセンターテニスコート管理棟 53,300千円 三輪みどり山球場管理棟 16,792千円 三輪みどり山球場物置 138千円	決算額の主な内訳	成瀬クリーンセンターテニスコート砂入り人工芝コート 31,396千円 照明装置 10,775千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート及び三輪みどり山球場建物の減価償却により、1,849千円の減少	主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート工作物の減価償却により、4,217千円の減少	主な増減理由	

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013	2012
						合計	合計
球場・コート管理事務	0.1					0.1	0.1
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
2012年度 特定事業 合計	0.01	0.0	0.05	0.0	0.0	0.1	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆維持補修費が減少していますが、野球場はフェンスの腐食や破損、テニスコートはコートのひび割れ等が発生しています。テニスコートは開設から20年以上が経過し、コートの張替え等大規模な更新が必要な状況になっていますが、予算の確保が難しい状況にあります。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆施設の利用者へのサービスが向上するように、指定管理者との連携を強化し、必要なところに予算を集中させるとともに、モニタリング等により、事業内容や指定管理料が適正かどうか確認していく必要があります。

◆テニスコートの更新や球場の老朽化等、維持補修の経費が増えていることが予想される中、施設の修繕を計画的に実施し、その財源を確保していく必要があります。

2013年度 学校施設開放事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
事業類型	1:施設運営受益者負担型

主管課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的 市立小中学校の校庭、体育館、夏季プール、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プール(町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校)を夜間や休日等、学校の授業や部活動で使用していない時間帯を市民に開放し、市民のスポーツ活動を推進します。

基本情報	根拠法令等 町田市立学校施設の開放に関する条例						
		2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	木曽中学校校庭 管理棟	
	利用料金収入 (単位:千円)	8,980	10,251	9,793	建設年月日	1995年9月26日	
	受益者負担比率	-	12.3%	13.1%		2011年度	2012年度
				資産老朽化比率	96.7%	97.1%	97.3%

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

- ◆物件費が約80%を占めています。委託料を抑えることができればコストの削減につながりますが、サービスの低下にならないように注意する必要があります。特にプール事業は人命がかかわる事業ですので慎重に行う必要があります。
- ◆利用者数を増やすことができれば、1人あたりのコストを抑えることができます。プールにおいては集客を集められる事業の展開を考えていくことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
学校プール利用者数						学校プールの利用者数
①夏季開放プール	人	①24,394	①34,177	①32,050	①32,000	
②中学校温水プール		②39,852	②46,393	②44,186	②48,000	
学校開放利用者数		①	①	①	①	学校開放の利用者数
①小中学校校庭・体育館	人	483,972	490,354	518,274	500,000	
②木曽中学校夜間照明設備		②8,947	②10,372	②11,260	②10,000	
成果の説明						

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	11,524	9,170	△ 2,354	地方税	0	0	0
物件費	66,106	63,715	△ 2,391	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	63,797	61,999	△ 1,798	都支支出金	0	0	0
維持補修費	905	588	△ 317	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	10,251	9,793	△ 458
補助費等	831	875	44	その他	227	256	29
減価償却費	206	206	0	行政収入 合計(a)	10,478	10,049	△ 429
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 73,106	△ 64,863	8,243
賞与・退職手当引当金繰入額	4,012	358	△ 3,654	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	83,584	74,912	△ 8,672	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 73,106	△ 64,863	8,243
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 (f)	0	1,360	1,360
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	1,360	1,360	当期収支差額 (e)+(h)	△ 73,106	△ 63,503	9,603

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	学校温水プール総合管理業務委託 53,140千円 学校プール開放委託 6,047千円	決算額の主な内訳	学校温水プール使用料 9,237千円 木曽中学校照明設備使用料 556千円
主な増減理由	学校温水プールの管理業務委託を全施設一括で委託した等により、2,391千円の減少	主な増減理由	学校温水プールにおいて、設備の不具合が発生し、プールの開放ができなかったことにより、458千円の減少
勘定科目	維持補修費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	町田第一中学校プール監視室エアコン修繕 525千円 木曽中学校夜間照明設備分電盤修繕 63千円	決算額の主な内訳	学校プール開放に伴う傷害保険及び賠償責任保険 642千円 スポーツ施設相互利用精算金 233千円
主な増減理由	2013年度は緊急修繕箇所が2012年度と比較して少なかったことにより、317千円の減少	主な増減理由	学校プール開放監視スタッフの増加に伴う傷害保険の支出及びスポーツ施設利用券の相互利用に伴う精算金の増加により、合計44千円の増加

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2013	605,770	124	△ 20	2012年度と比較し、事業費の減少、利用者数の増加により、一人あたりのコストが20円減少しました。
		2012	581,296	144		
開所1回あたりコスト	回	2013	17,429	4,298	△ 669	2012年度と比較し、事業費の減少、開放日数の増加により、一回あたりのコストが669円減少しました。(内訳 温水プール854回、木曽中学校271回、プール開放332回、校庭・体育館開放15,972回)
		2012	16,827	4,967		
		2013				※ 学校の施設を利用しているため光熱水費は教育委員会が負担しています。
		2012				

④貸借対照表

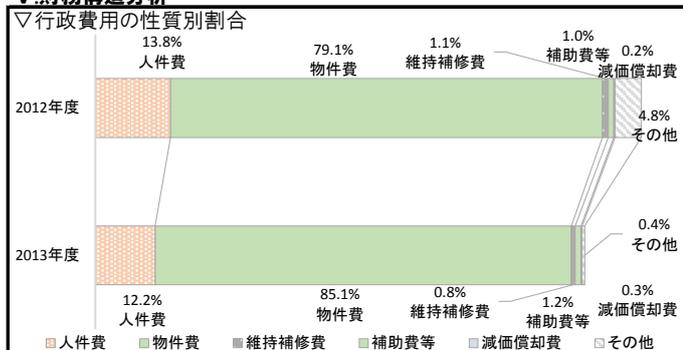
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0		地方債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	438	358	△ 80
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,442	1,236	△ 206	その他の流動負債	0	0	0
		土地	0	0	0	固定負債	10,620	7,998	△ 2,622
		建物	4,944	4,944	0	地方債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 3,502	△ 3,708	△ 206	退職手当引当金	10,620	7,998	△ 2,622
		工作物	40,376	40,376	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計	11,058	8,356	△ 2,702
		工作物	0	0	0	純資産	△ 9,616	△ 7,120	2,496
		工作物減価償却累計額	0	0	0	純資産の部合計	△ 9,616	△ 7,120	2,496
建設仮勘定	0	0	0	資産の部合計	1,442	1,236	△ 206		
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	1,442	1,236	△ 206		

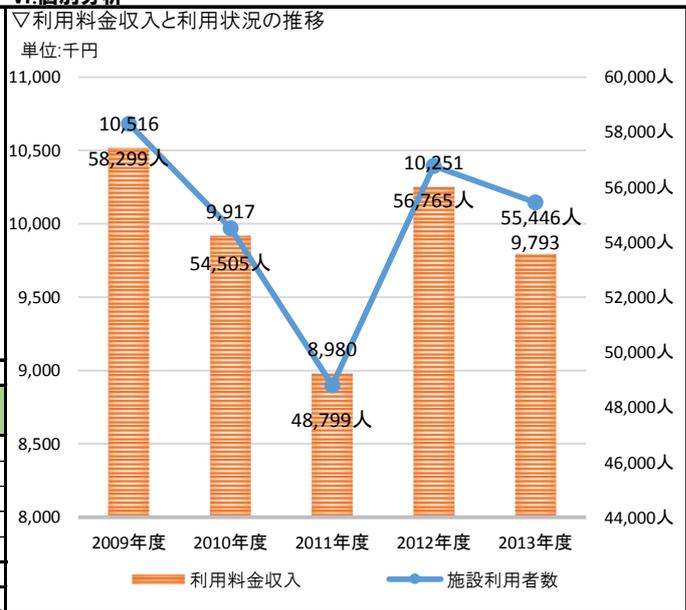
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	工作物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	木曾中学校校庭管理棟 4,944千円	決算額の主な内訳	木曾中学校照明設備 40,376千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	木曾中学校校庭管理棟の減価償却により、206千円の減少	主な増減理由		主な増減理由	

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013		2012	
						合計	合計	合計	合計
学校施設開放事務	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.5	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.5		
2012年度 特定事業 合計	1.2	0.0	0.2	0.0	0.1	1.5			

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆管理業務委託を全施設一括にしたことにより、コストの削減を図りました。
- ◆温水プールの一施設において、夏季に施設の不具合が発生したため、利用者数が伸びない原因となりました。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆利用者へのサービスを維持しつつ、コストの削減を図ることが必要です。特にプール事業は安易なコスト削減は人命にかかわるため慎重に行う必要があります。
- ◆温水プール事業の施設管理においては、施設を管理する教育委員会との連携強化が課題です。

2013年度 スポーツ広場事業の財務諸表

部局名	文化スポーツ振興部
-----	-----------

主管課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費	事業類型	2:施設運営型
------	---------	------	---------	------	---------

I.事業概要

事業目的	地域住民のスポーツ振興及び健康増進のため、町内会・自治会、スポーツ団体等が未使用の市有地又は民有地等をスポーツ広場として暫定利用する際に、市が必要な支援を行うものです。
------	--

基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ広場利用支援事業実施要綱							
		2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	スポーツ広場 トイレ・倉庫		
					建設年月日			
						2011年度	2012年度	2013年度
					資産老朽化比率	30.0%	34.0%	38.1%

II.2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆スポーツ広場1箇所あたりのコストが1,000千円を超えていること、経費のかかる広場とそうでない広場とあることについて分析と検討が必要です。
◆維持管理コストの主なものは、草刈や原材料費、光熱水費の物件費が年間に約8,500千円、修繕等の維持管理経費が5,322千円のコストがかかっています。施設の平等利用や公有財産を利用した施設であれば受益者負担について検討していく必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
スポーツ広場利用者数	人	401,146	419,064	415,162	395,000	スポーツ広場の利用者数
スポーツ広場数	箇所	30	30	30	28	スポーツ広場数

◆スポーツ広場の利用形態が多様化しており、利用者が年々増加していましたが今回減少に転じ、頭打ちの傾向にあります。
◆2013年度末において、広場のスポーツ利用がなくなった等の理由により、スポーツ広場2箇所を廃止しました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	12,695	15,732	3,037	地方税	0	0	0
物件費	14,873	9,093	△ 5,780	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	6,768	4,984	△ 1,784	都支支出金	0	0	0
維持補修費	2,380	3,931	1,551	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	366	11,068	10,702	その他	0	0	0
減価償却費	1,516	1,516	0	行政収入 合計(a)	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 35,915	△ 46,866	△ 10,951
賞与 退職手当引当金繰入額	4,085	5,526	1,441	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 合計 (b)	35,915	46,866	10,951	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 35,915	△ 46,866	△ 10,951
特別費用 (g)	28	0	△ 28	特別収入 (f)	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 28	0	28	当期収支差額 (e)+(h)	△ 35,943	△ 46,866	△ 10,923

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	スポーツ広場草刈業務委託委託 1,207千円 西田公衆トイレ清掃及びシャッター開閉業務委託 1,206千円 原材料費 2,005千円 光熱水費 1,934千円	決算額の主な内訳	スポーツ広場用地改修工事損害賠償金 10,710千円 施設賠償責任保険 358千円
主な増減理由	2012年度は、スポーツ広場の地権者からの土地の返還を受け、用地測量の実施や近隣住民への砂塵対策のための散水設備の購入等があったため、5,780千円の減少	主な増減理由	スポーツ広場用地の返還に伴う工事において、工事が施工できなかったことによる工事賠償金の発生等により、10,702千円の増加
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由	
スポーツ広場利用者1人あたりコスト	人	2013	415,162	113	27	スポーツ広場返還工事に伴う賠償金が影響しています。賠償金を除いた場合のコストは一人あたり87円となります。	
		2012	419,064	86			
スポーツ広場1箇所あたりコスト	箇所	2013	30	1,562,200	365,033	スポーツ広場返還工事に伴う賠償金が影響しています。賠償金を除いた場合のコストは1箇所あたり1,205千円となります。	
		2012	30	1,197,167			
		2013					
		2012					

④貸借対照表

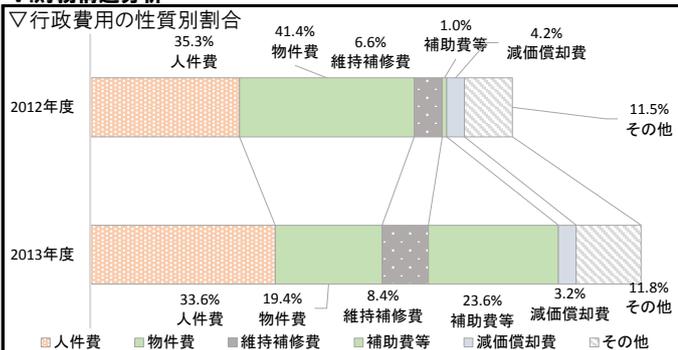
(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		452	614	162
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	971,964	970,448	△ 1,516	賞与引当金	452	614	162	
	土地	947,912	947,912	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物	36,425	36,425	0	固定負債	10,973	13,721	2,748	
	建物減価償却累計額	△ 12,373	△ 13,889	△ 1,516	地方債	0	0	0	
	工作物	0	0	0	退職手当引当金	10,973	13,721	2,748	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0	
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	11,425	14,335	2,910	
	その他の固定資産	0	0	0	純資産	960,539	956,113	△ 4,426	
資産の部合計	971,964	970,448	△ 1,516	純資産の部合計	960,539	956,113	△ 4,426		
				負債及び純資産の部合計	971,964	970,448	△ 1,516		

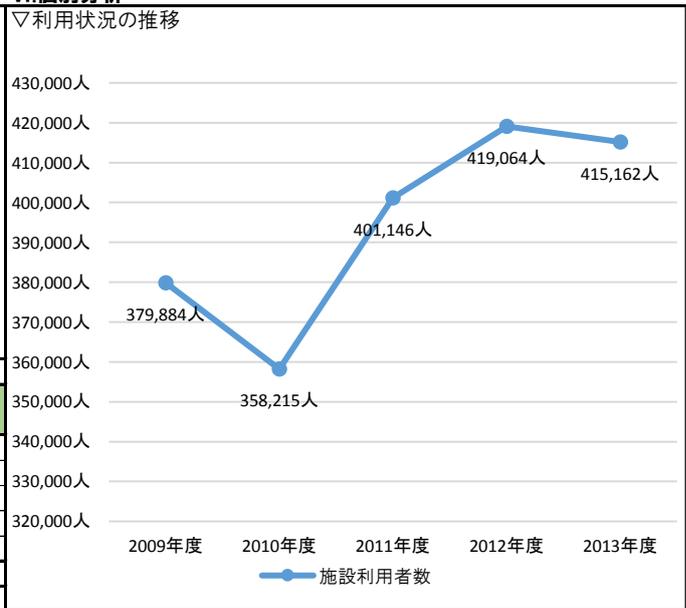
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	金森中央スポーツ広場用地 141,807千円	決算額の主な内訳	スポーツ広場トイレ(5箇所) 36,252千円	決算額の主な内訳	
	山崎第二スポーツ広場用地 806,105千円		スポーツ広場倉庫(2箇所) 173千円		
主な増減理由		主な増減理由	スポーツ広場トイレ及び倉庫の減価償却により、1,516千円の減少	主な増減理由	

V.財務構造分析



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013年度		2012年度	
						合計	合計	合計	合計
スポーツ広場事務	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
						0.0	0.0	0.0	0.0
2013年度 特定事業 合計	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5		
2012年度 特定事業 合計	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.5			

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆スポーツ広場の返還にかかる業務が一時的に増えたため、人件費及び補助費等の金額が増加しました。
- ◆経常的に支出するスポーツ広場の維持管理にかかる経費については、2012年度並みで推移しています。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆スポーツ広場は、未使用の市有地や民有地を暫定的に利用していることから、多くの経費をかけることができません。しかしながら、近隣住民への配慮を含め適切な維持管理を行っていく必要があります。
- ◆暫定施設でありながら経常的に経費がかかっていることについて検討が必要です。

2013年度 文化スポーツ振興部 国際版画美術館の財務諸表

歳出目名称	国際版画美術館費
事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

I 組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を効果的に提供し、市民および来館者に喜び、感動、やすらぎを与えます。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えるとともに、広く社会に、版画文化に関する専門性に裏付けられた良質な情報発信を行います。これにより、町田市市の文化振興および文化・芸術都市としてのブランドイメージ向上に寄与します。
所管事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆美術作品等の収集、保管及び展示会、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。 ◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。 ◆図録等の作成及び販売、美術作品の寄贈及び寄託に関すること。 ◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。

基本情報	根拠法令等	町田市立国際版画美術館条例					
		2011年度	2012年度	2013年度	施設の名称	町田市立国際版画美術館	
	利用料金収入 (単位:千円)	29,885	40,569	32,531	建設年月日	1986年8月	
	受益者負担比率	-	11.6%	10.8%		2011年度	2012年度
				資産老朽化比率	50.0%	52.0%	54.0%

II 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

◆一般的に、美術館等の歳出に対しての歳入の割合(受益者負担割合)は、13%を超えれば優良とされている中で、受益者負担率11.6%は比較的良好な数字です。今後は、少ない歳出でいかに効果を上げていくかが課題となります。
 ◆美術館は、開館27年目に突入り、重要備品である収蔵作品は2万4千点を数え、近々の大規模な修繕は必須となります。このため、2013年度は施設修繕の基本設計を実施し、今後の維持管理コスト負担を考慮し、施設の適正な管理運営等について検討する必要があります。

III 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	91,659	112,442	97,829	92,000	企画展および常設展示室ミニ企画展の観覧者数の合計
観覧料、施設使用料収入	千円	12,862	20,308	15,822	-	企画展の観覧料、市民展示室・アトリエ等の施設使用料の合計額

◆2013年度は通常の予算規模で年8回の企画展、年4回の常設展示室ミニ企画展を実施。前年度の開館25周年大型企画(海外からの作品借用、著名美術家の企画等)に比べて、観覧者数・観覧料とも減少しましたが、通常年度(2011年度)との比較では、増加に転じました。
 ◆企画展開催ごとに講演会、プロムナードコンサート等を実施し、作品の鑑賞とともに美術館での充実のひと時を提供、観覧者の満足度向上に寄与しました。
 ◆普及事業では版画教室等各種講座、版画研修会等の実施による学校教育活動への協力、小中学校作品展等を行い、「作る楽しみ」を提供できる美術館として活動しました。

IV 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	113,705	112,295	△ 1,410	地方税	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,860	2,690	△ 170	保険料	0	0	0
物件費	158,605	135,901	△ 22,704	行庫支出金	0	0	0
うち委託料	111,931	93,322	△ 18,609	都支支出金	10,730	0	△ 10,730
維持補修費	21,735	1,873	△ 19,862	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	20,308	15,822	△ 4,486
補助費等	7,243	5,357	△ 1,886	その他	20,261	16,709	△ 3,552
減価償却費	38,547	38,547	0	行政収入 小計(a)	51,299	32,531	△ 18,768
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 297,401	△ 267,620	29,781
賞与・退職手当引当金繰入額	8,865	6,178	△ 2,687	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 小計 (b)	348,700	300,151	△ 48,549	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 297,401	△ 267,620	29,781
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 297,401	△ 267,620	29,781

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	都支支出金
決算額の主な内訳	町田市立国際版画美術館総合管理61,697千円 「空想の建築」展ポスター・図録等製作3,749千円 「縁起もの」展図録等作成3,318千円など	決算額の主な内訳	
主な増減理由	2012年度は開館25周年記念事業のため大型企画を実施。2013年度は通常規模で事業実施したため物件費全体が22,704千円減少。	主な増減理由	2012年度は開館25周年記念事業のための市町村総合交付金まちづくり振興割地域特選事業枠が交付されていたことにより、交付金分の10,730千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	芦ヶ谷公園シーソー保守点検777千円 ブース映像システム修繕496千円など	決算額の主な内訳	図録、図書等販売代6,009千円 講習会等参加費6,510千円 芸術文化振興基金助成金2,200千円など
主な増減理由	2012年度は大規模なエレベーター改修工事17,999千円を行ったのに対して、2013年度は通常の修繕、点検のみだったため19,862千円減少。	主な増減理由	観覧者の減少により図録、図書等販売代が1,300千円減少。展覧会を通常規模で実施したため芸術文化振興基金助成金が1,300千円減少。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、「行政費用 合計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2013	159,989	1,876	△ 12	入館者数は減少しましたが、事業予算も減少しているため2012年度より12円の減少となり、ほとんど変わりませんでした。
		2012	184,707	1,888		
開館1日あたりのコスト	日	2013	305	984,102	△ 155,440	事業費の減少に伴い、2012年度より1日あたりのコストが155,440円減少しました。
		2012	306	1,139,542		
延べ床面積1㎡あたりのコスト	㎡	2013	7,840	38,285	△ 6,191	事業費の減少に伴い、2012年度より1㎡あたりのコストが6,191円減少しました。
		2012	7,840	44,476		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	4,828	4,588	△ 240
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	1,188,134	1,149,587	△ 38,547	賞与引当金	4,828	4,588	△ 240
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物	1,927,337	1,927,337	0	固定負債	117,193	102,600	△ 14,593
	建物減価償却累計額	△ 1,002,215	△ 1,040,762	△ 38,547	地方債	0	0	0
	工作物	263,012	263,012	0	退職手当引当金	117,193	102,600	△ 14,593
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	負債の部合計	122,021	107,188	△ 14,833
	その他の固定資産	1,396,392	1,396,392	0	純資産	2,462,505	2,438,791	△ 23,714
資産の部合計	2,584,526	2,545,979	△ 38,547	負債及び純資産の部合計	2,584,526	2,545,979	△ 38,547	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	工作物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 1,927,337千円	決算額の主な内訳	屋外彫刻4点 my sky hole88 30,000千円 トキオコシ 30,700千円 開かれた宇宙 27,700千円 噴水・シーソー 174,612千円	決算額の主な内訳	収蔵美術品 1,296,392千円 定額運用基金 100,000千円
主な増減理由	所管する建物の減価償却費 △38,547千円	主な増減理由		主な増減理由	

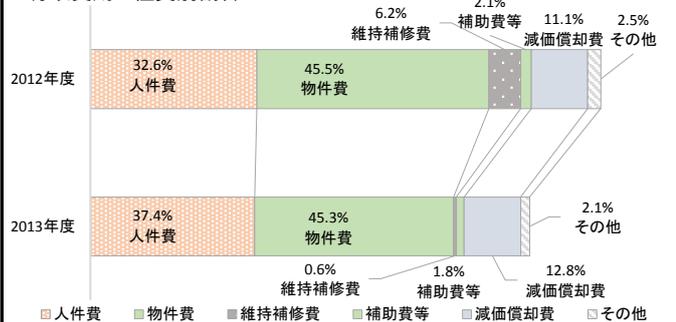
⑥キャッシュ・フロー・収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	32,531	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	276,438	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 243,907	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 243,907
				一般財源充当調整額	243,907

V. 財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013	2012
						合計	合計
管理事務	3.4		1.0			4.4	4.3
展示事業	6.2			0.3	0.7	7.2	7.4
ハイビジョン事業	1.0					1.0	1.0
普及事業	4.4				1.0	5.4	4.8
						0.0	0.0
2013年度 歳出目 合計	15.0	0.0	1.0	0.3	1.7	18.0	17.5
2012年度 歳出目 合計	15.0	0.0	1.0	0.3	1.2	17.5	

VI. 個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移

単位:千円



VII. 総括

①成果および財務の分析

- ◆2013年度は通常規模の展覧会を実施。前年度の開館25周年大型企画(都交付金を確保し、海外からの作品借用・著名美術家の企画等)に比べて入館者数、観覧料収入が減少しましたが、事業予算も縮小したため受益者負担率は10.8%となり、前年の11.6%とほぼ同じ水準を維持しました。
- ◆物件費(主に展覧会事業および施設管理費用)が全体の45%を占める割合は変化ありませんが、人件費の占める割合が5%増加しました。
- ◆開館から27年経過し、資産老朽化比率54.0%と徐々に増加しています。2012年度のエレベーター修繕17,999千円のような大規模なものは2013年度ありませんでしたが、2014~2015年度予定の空調設備等大規模修繕以外にも小規模な修繕が多発する傾向にあります。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆2012年度の開館25周年大型企画を例外とすれば、例年の事業全体では安定した入館者数、施設使用料、図録等販売収入が維持できています。しかし今後、集客力が高くお客様の満足度の高い企画を実施するために、一層のコスト削減と都支出金や各種助成金の積極的な確保を行う必要があります。
- ◆来館者以外にもサービスを提供できるよう図録等の販売拡大、収蔵作品情報提供システムの検討・充実することによる利用者の拡大が課題となります。
- ◆2015年3月から予定の大規模修繕において可能な範囲で関連する施設整備を行い、今後の維持補修費削減に努める必要があります。

2013年度 文化スポーツ振興部 国体推進課の財務諸表

歳出目名称	国体開催費
事業類型	c:その他型

I. 組織概要

組織の使命	国体に参加する人、見る人、支える人が楽しさ、達成感、誇り、郷土愛を感じられるような大会にします。スポーツ、産業・文化・環境活動等を通じ、町田のイメージアップと知名度の向上を図ります。国体終了後にも継続できるような市民運動や環境の整備を行います。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会)の開催準備に関すること。 ◆スポーツ祭東京2013(第68回国民体育大会)に係る各種事業の推進及び調整に関すること。

II. 2012年度末の財務分析を踏まえた事業の課題

<ul style="list-style-type: none"> ◆当事業は、国体開催時の運営を安全かつ円滑に進めること、来訪者へのおもてなしや町田の魅力を発信することが最大の使命となるため、そのための様々な取り組みに対して、効果的に経費を執行していく必要があります。 ◆事業の執行に際しては、都の補助金等、特定財源を得て、有効に活用していく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	2011年度	2012年度	2013年度	2016年度	成果指標の定義
東京国体観戦者数、関連イベント参加者数	人	107,256	265,227	125,798	—	年度ごとの観戦者数、国体関連イベント参加者数
東京国体ボランティアスタッフ登録者数	人	—	405	1,386	—	年度ごとのボランティアスタッフ登録者数
	人					
成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆庁内実施本部を組織し、職員に対する説明会(研修)を実施することで、安全かつ円滑な運営のもと、東京国体競技会を開催しました。 ◆ホームページやFacebook、Twitter、広報媒体による情報発信、市内外の各種イベント参加や自主企画イベントの開催、広報啓発グッズ及びチラシ、パンフレット、観戦ガイドの作成・配布等の広報・啓発事業の実施により、国体観戦者数、国体関連イベント参加者数の延べ人数が2011年度から498,281人に達しました。またスポーツとともに文化芸術、観光など、多様な分野の魅力をPRしました。 ◆広報活動の充実や、国体イベント等の活動機会を増やしたことで、ボランティアの登録者数が1,386人に達し、延べ2,976人が活動しました。 ◆ボランティアスタッフの組織、競技会場周辺の装飾や清掃活動等の環境整備、市内学校の観戦事業等の市民協働事業を実施し、多くの市民が大会運営に参加しました。 					

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度 A	2013年度 B	差額 B-A
人件費	123,462	123,518	56	地方税	0	0	0
うち時間外勤務手当	12,815	18,014	5,199	保険料	0	0	0
物件費	17,586	20,681	3,095	国庫支出金	0	0	0
うち委託料	13,812	19,271	5,459	都支出金	45,944	102,213	56,269
維持補修費	105	0	△ 105	分担金及び負担金	0	0	0
扶助費	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
補助費等	60,675	197,630	136,955	その他	4,981	0	△ 4,981
減価償却費	0	0	0	行政収入 小計(a)	50,925	102,213	51,288
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 157,115	△ 243,279	△ 86,164
賞与・退職手当引当金繰入額	6,212	3,663	△ 2,549	金融収支差額 (d)	0	0	0
行政費用 小計 (b)	208,040	345,492	137,452	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 157,115	△ 243,279	△ 86,164
特別費用 (g)	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	708	708
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	708	708	当期収支差額 (e)+(h)	△ 157,115	△ 242,571	△ 85,456

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	委託料 スポーツ祭東京2013開催準備支援業務委託14,512千円 スポーツ祭東京2013町田市開催準備事務支援業務委託4,735千円など	決算額の主な内訳	緊急雇用創出事業費臨時特例補助金14,512千円 国民体育大会競技普及啓発費補助金2,000千円 国民体育大会気運醸成・開催記念事業費補助金8,200千円 国民体育大会運営費補助金77,501千円
主な増減理由	国体開催年度となり、事業内容及び事業量の増加により、委託料が5,459千円増加。	主な増減理由	国体開催年度となり、競技会の準備・運営に係る事業費の1/2を補助する都支出金が77,501千円増加。
勘定科目	補助費等	勘定科目	
決算額の主な内訳	スポーツ祭東京2013町田市実行委員会負担金197,630千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	国体開催年度となり、競技会運営費用等の増加により、実行委員会への負担金が136,955千円増加。	主な増減理由	

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度末 A	2013年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		3,937	3,663	△ 274
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	3,937	3,663	△ 274
	土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物	0	0	0	固定負債		95,550	81,921	△ 13,629
	建物減価償却累計額	0	0	0		地方債	0	0	0
	工作物	0	0	0		退職手当引当金	95,550	81,921	△ 13,629
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	土地	0	0	0	負債の部合計		99,487	85,584	△ 13,903
	工作物	0	0	0	純資産		△ 99,487	△ 85,584	13,903
工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計		△ 99,487	△ 85,584	13,903	
建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計		0	0	0	
その他の固定資産	0	0	0						
資産の部合計	0	0	0						

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	主な増減理由	主な増減理由

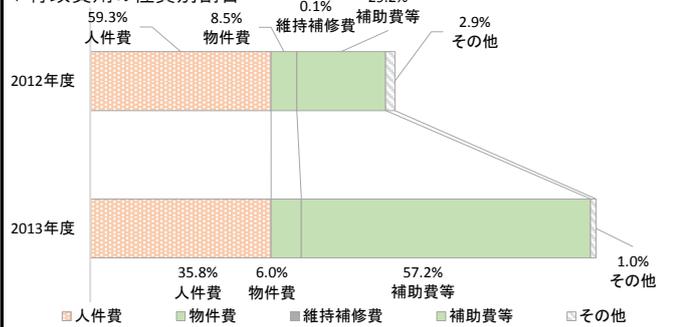
⑤キャッシュ・フロー・収支差額集計表

(単位:千円)

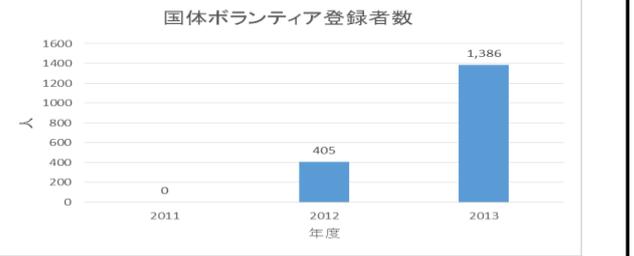
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	102,213	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	358,688	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 256,475	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
			収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 256,475	
			一般財源充当調整額	256,475	

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	再雇用 嘱託	臨時	2013 合計	2012 合計
総務事務	5.6	0.1	0.2	0.4	0.4	6.7	5.8
広報啓発・事業事務	4.0	0.9	-	0.7	-	5.6	5.1
競技事務	2.9	-	-	1.6	-	4.5	4.2
宿泊衛生・輸送交通事務	0.5	-	0.8	-	-	1.3	1.5
リハーサル大会事務	0.0	-	-	-	-	0.0	1.6
2013年度 歳出目 合計	13.0	1.0	1.0	2.7	0.4	18.1	18.2
2012年度 歳出目 合計	13.0	1.0	2.0	1.8	0.4	18.2	-

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆国体開催費の57%を占めている補助費は、スポーツ祭東京2013町田市実行委員会への負担金として支出しています。
- ◆補助費のスポーツ祭東京2013町田市実行委員会への負担金は、国体の競技会運営費用等のため、2012年度より36,955千円増の197,630千円となりました。その成果として国体観戦者数、国体関連イベント参加者数は目標値を大きく上回り、都内で1番の国体来場者数を記録しました。ボランティア登録者数は2012年度の3倍近くの人数に達しました。
- ◆財源は、4つの都支出金102,213千円で賄っており、都支出金のうち多くを占める国民体育大会運営費補助金は、東京都と何度も調査とヒアリングを重ね、補助対象となるよう事業の運営を行うことで、財源を確保しました。
- ◆国体終了に伴い2013年度を以って国体推進課が廃止になるため、国体開催費がなくなります。

②2013年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆国体開催時に発足したボランティア組織について、今後も町田のスポーツを支えるため、存続体制の検討を行ってまいりました。国体終了後も600人が継続して活動したいと希望があり、組織を存続させるための財源確保が必要です。
- ◆補助費の支出先である実行委員会が、国体開催を記念して作成した記念碑やモニュメント等の維持管理についての財源確保も課題です。

